

平成25年度

公益財団法人JKA補助事業

ICT社会における安全・安心確保に関する補助事業
実施報告書

一般財団法人コンピュータ教育推進センター



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

目次

第1章 ICT社会における情報モラル講師育成	1
1. 事業概要	2
1. 1 事業の目的	2
1. 2 事業の内容	3
(1) 委員会の設置	3
(2) 講師育成セミナー開催地の募集	4
1. 3 事業の経過	5
2. 講師育成セミナーの開催	6
2. 1 講師育成セミナーの目的	6
2. 2 セミナーの概要	6
2. 3 セミナー開催団体一覧	7
2. 4 開催団体からの報告	8
2. 5 アンケート結果より	30
3. まとめ	34
<付録>アンケート質問票	35
第2章 ICT社会におけるコミュニケーション力の育成事業	37
はじめに	38
1. 事業概要	39
1. 1 事業の目的	39
1. 2 事業の内容	39
(1) 委員会の設置	40
(2) 「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」研修開催地の募集	40
1. 3 事業の経過	41
2. 「コミュニケーション力の育成」研修の開催	42
2. 1 「コミュニケーション力の育成」研修の目的	42
2. 2 研修の概要	42
2. 3 セミナー開催団体一覧	44
2. 4 開催団体からの報告	45
2. 5 アンケート結果より	66
3. まとめ	71
3. 1 「コミュニケーション力の育成」研修の活動	71
3. 2 次年度へ向けて 継続とさらなる定着	71
<付録>アンケート質問票	72

第1章 ICT社会における情報モラル講師育成

1. 事業概要

1. 1 事業の目的

インターネットは社会生活の一部となり、買い物や予約申込み等は電話よりもむしろインターネットを利用して行い、インターネット無しでは考えられないというほど社会生活に浸透している。また、スマートフォンがフィーチャーフォンを上回って普及する現状では、インターネットへの入り口となる端末は、パソコン、携帯電話からスマートフォン、タブレット端末、携帯ゲーム機、音楽プレーヤーのように多様化すると同時に、いつでも、どこでもインターネットに接続して、利用できるものとなっている。

このように身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安心、安全にできるようになると同時に、もう一方では子どもたちがプロフや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

これまで一般財団法人コンピュータ教育推進センター（以下、CECと称す）では、インターネットには危険な面があるということで子どもたちをそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人JKAの補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「ICT社会における情報モラル講師育成事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその3年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に帰り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための事業を実施している。

これら事業は、「ICT社会における安全・安心確保に関する補助事業」のひとつ、「ICT社会における情報モラル講師育成」として、子どもたちがネット社会に正しく対応し、安全・安心して利用できるようになることを目的としており、学校の先生がそれぞれの教科の中で情報モラル指導が行えるように、家庭では保護者や子ども自身が情報モラルを学ぶために、それぞれ一助となるよう情報、材料を提供するものである。

1. 2 事業の内容

本委員会の母体である「親子のためのネット社会の歩き方」検討委員会の設置時よりご協力いただいている有識者を中心に検討委員会を構成し、全国の教育委員会等において、教職員と指導主事を中心とした「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを20回実施した。

以下に、それら事業の概要を示す。

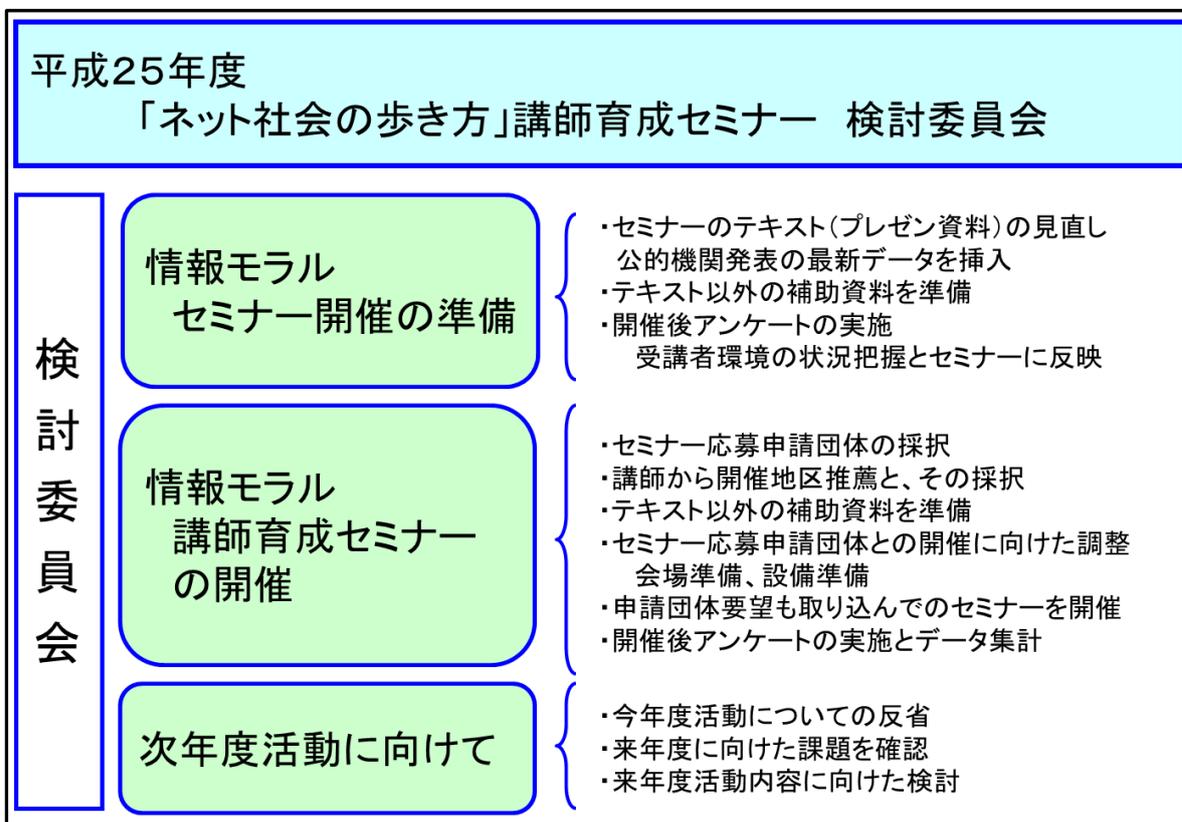
(1) 委員会の設置

当財団に委員会を設置し、情報モラル講師の育成セミナー開催と、中・高校生向けの教材の開発、及び報告書の執筆、アンケートデータ分析などを行った。

検討委員名簿

委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学大学院
委員	石原 一彦	岐阜聖徳学園大学
	榎本 竜二	東京女子体育大学
	梶本 佳照	三木市立教育センター
	木村 和夫	台東区立浅草小学校
	佐久間 茂和	台東区立教育支援館
	高橋 邦夫	千葉学芸高等学校
	西田 光昭	柏市立中原小学校
	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中学校

実施概要図



(2) 講師育成セミナー開催地の募集

以下の要領で育成セミナーの開催募集を行った。

1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

2) 開催時期と時間

平成25年6月から平成26年12月の間の 午後半日を1回（原則）

（理論編講義とワークショップを実施のため、150分以上の時間を確保してください。
短い場合はご希望に添えない場合がございます。）

3) 対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約50名程度（目安）

（定員については目安であり、これを上回る、あるいは下回る人数での応募も妨げません。）

4) 開催会場

- ・教育委員会や自治体の施設等無償の会場
- ・受講者がパソコンを使用可能な会場（必須）

5) セミナーの具体的な内容

セミナーの具体的な内容については、当財団に設置される「講師育成セミナー検討委員会」が貴教育委員会と協議して決定します。

セミナーの例として下記のような①理論編 ②ワークショップ を組み合わせた構成としております。

第1部：理論編 60分

テーマ：情報モラル教育の現状やその重要性について

概要：社会や学校生活における情報モラルに対する現状認識と今後の方向性について
・学校における情報モラル指導事例の紹介

講師：学識経験者

第2部：ワークショップ 90分

第1部の講師に司会をお願いし、ワークショップ形式で会場参加者と意見交換を行う。

なお、参考として平成20年度～22年度に実施した情報モラル等の普及セミナー「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」教材を添付しますのでご参照ください。

1. 3 事業の経過

本事業の事業経過を以下に示す。

平成25年

- | | |
|--------|---|
| 5月 7日 | 講師育成セミナー検討委員会 第1回 開催
今年度事業の確認と講師育成セミナー開催応募状況を審議
また、セミナーの研修資料についての検討した |
| 6月 7日 | 高知県教育委員会事務局教育政策による講師育成セミナーを開催 |
| 6月28日 | 新潟市立総合教育センターによる講師育成セミナーを開催 |
| 6月29日 | 鳥取県教育センターによる講師育成セミナーを開催 |
| 7月25日 | 市川市教育センターによる講師育成セミナーを開催 |
| 7月25日 | 千葉市教育センター情報教育部門による講師育成セミナーを開催 |
| 7月30日 | やまぐち総合教育支援センターによる講師育成セミナーを開催 |
| 8月 5日 | 野田市教育委員会による講師育成セミナーを開催 |
| 8月 6日 | 鹿児島市立学習情報センターによる講師育成セミナーを開催 |
| 8月 7日 | 加東市教育委員会による講師育成セミナーを開催 |
| 8月 8日 | 岐阜市教育研究所による講師育成セミナーを開催 |
| 8月23日 | 佐賀県教育庁学校教育課による講師育成セミナーを開催 |
| 8月23日 | 佐賀県教育庁学校教育課による講師育成セミナーを開催 |
| 8月23日 | 和歌山県教育センター学びの丘による講師育成セミナーを開催 |
| 8月28日 | 大分県教育庁教育財務課情報化推進班による講師育成セミナーを開催 |
| 8月28日 | 三木市立教育センターによる講師育成セミナーを開催 |
| 8月29日 | 柏市立教育研究所による講師育成セミナーを開催 |
| 9月13日 | 講師育成セミナー検討委員会 第2回 開催
今年度セミナーを開催して回答頂いたアンケートの中間報告を実施
今後の情報モラル指導支援への取り組みについて検討を実施 |
| 10月1日 | 大和市教育研究所による講師育成セミナーを開催 |
| 10月17日 | 島根県教育センターによる講師育成セミナーを開催 |
| 12月2日 | 栃木県総合教育センター生涯学習部による講師育成セミナーを開催 |

平成26年

- | | |
|-------|--|
| 1月10日 | 鹿児島県教育庁義務教育課による講師育成セミナーを開催 |
| 2月28日 | 国立オリンピック記念青少年総合センターにてCEC成果発表会開催
「教育の情報化」推進フォーラムにて、本事業の「ネット社会の歩き方」情報モラル指導体験ワークショップを分科会Bとして発表 |

※3月中に、今年度実績をふまえ、来年度事業開始に向けた検討委員会を開催の予定

2. 講師育成セミナーの開催

2. 1 講師育成セミナーの目的

学習指導要領の総則には「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載され、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をすることが必要になった。そのためCECでは、全ての教職員が情報モラル指導を行えるようにするための準備を手助けする、具体的には情報モラル指導をできる教職員を増やすために校内研修会などを計画、開催することとし、「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーと称した情報モラル指導の講師を育成するためのセミナーを開催した。セミナーではネット社会の現状を理解することからはじまり、指導に必要な教材、コンテンツなどの情報提供をした後、後半は研修会計画の組み方などをワークショップで実体験できるようにした。

2. 2 セミナーの概要

セミナーでは以下のような内容について、講師より講義形式で実施する。

1. データから見るネット社会の現状
2. 情報モラルの指導（理論編）
3. 情報モラルの指導（実践編）
4. 「ネット社会の歩き方」の活用
5. その他の教材の紹介
6. 保護者との関わり
7. 問題発生時の対応

これら内容を座学にて一通り学び、その後受講者には各自のパソコンからWeb上の情報モラル関連のコンテンツ、例えばCECが公開している「ネット社会の歩き方」などの教材コンテンツを実際に体験してもらおう。

そして、セミナーの最後には、本セミナーで学んだ情報や体験したコンテンツをもとに、受講者同士でグループを作り、情報モラル指導の校内研修会や情報モラル授業を計画してみるようなテーマでワークショップを実施する。

2. 3 セミナー開催団体一覧

表 採択された申請者とセミナーの担当講師一覧

No.	開催日	開催地	講師
1	2013年6月7日（金）	高知県教育委員会事務局教育政策	石原委員
2	2013年6月28日（金）	新潟市立総合教育センター	梶本委員
3	2013年6月29日（土）	鳥取県教育センター	三宅委員
4	2013年7月25日（木）	市川市教育センター	佐久間委員
5	2013年7月25日（木）	千葉市教育センター情報教育部門	高橋委員
6	2013年7月30日（火）	やまぐち総合教育支援センター	木村委員
7	2013年8月5日（月）	野田市教育委員会	藤村委員長
8	2013年8月6日（火）	鹿児島市立学習情報センター	西田委員
9	2013年8月7日（水）	加東市教育委員会	梶本委員
10	2013年8月8日（木）	岐阜市教育研究所	榎本委員
11	2013年8月23日（金）	佐賀県教育庁学校教育課	佐久間委員
12	2013年8月23日（金）	佐賀県教育庁学校教育課	佐久間委員
13	2013年8月23日（金）	和歌山県教育センター学びの丘	石原委員
14	2013年8月28日（水）	大分県教育庁教育財務課情報化推進班	藤村委員長
15	2013年8月28日（水）	三木市立教育センター	梶本委員
16	2013年8月29日（木）	柏市立教育研究所	西田委員
17	2013年10月1日（火）	大和市教育研究所	榎本委員
18	2013年10月17日（木）	島根県教育センター	藤村委員長
19	2013年12月2日（月）	栃木県総合教育センター 生涯学習部	三宅委員
20	2014年1月10日（金）	鹿児島県教育庁義務教育課	藤村委員長
21	2014年2月28日（金）	「教育の情報化」推進フォーラム	藤村委員長 他4名

2. 4 開催団体からの報告

講師育成セミナーの開催団体からは、セミナー開催ご実施報告書を提出してもらう。開催団体からの実施報告書（抜粋）を次ページ以降に示す。

(1) 高知県教育委員会事務局

開催日時	平成25年6月7日(金) 13時30分～17時00分				
開催場所	高知県教育センター本館(3階 第1、第2情報教育実習室)				
参加者人数	30名 内訳 : 指導主事 11名 (社会教育主事含む) 小学校 3名 特別支援学校教員 2名 中学校 4名 研究教諭・研究員 2名 高等学校 7名 他 1名				
セミナーの狙い	次に掲げる人材を育成する。 ・情報モラル教育に係る資料を提供し、解説すること等により、具体的な授業への展開手法や考え方を理解し習得することができる。 ・講師として情報モラル教育を指導することができる。 ・各学校等において、情報モラル研修を計画し実施することができる。				
考察	<p>新学習指導要領には情報モラルを身に付ける指導が明記されており、児童生徒がこれからのネット社会を正しく歩んでいくためには学校における情報モラル教育は大変重要である。</p> <p>また、発達の段階に応じた情報モラル教育の必要性や具体的な指導については、学習指導要領の内容を踏まえ、各学校において十分に認識され、その指導が適切に実施されなければならない。</p> <p>高知県では、昨年に引き続き、高知県教育センター本館を会場として、一般財団法人コンピュータ教育推進センターとの共催により、「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを開催することができた。</p> <p>当セミナーには、高知県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校、教育委員会事務局等から30名の参加があり、岐阜聖徳学園大学 石原教授の指導により、講義及びワークショップを行った。</p> <p>講義では インターネットや携帯電話等が関係した実際の犯罪や被害状況等の紹介があり、大変インパクトがある導入内容であった。</p> <p>続いて提供されたプレゼンテーションテキストを使用し、データから見るネット社会の現状、情報モラルの指導(理論編、実践編)、教材の紹介、保護者との関わり、問題発生時の対応等について、実際の事例等を踏まえ、実践に生かせる内容で展開された。このため、情報関係の事柄が詳しくない者にとっても、大変丁寧で分かりやすい内容であったと思われる。</p> <p>また、ワークショップでは、校種別に13班に分かれ、研修計画又は授業計画を作成し、プレゼンテーションソフトを使用して発表会を行った。セミナー参加者が各班の様々な発表を聴き合い評価することで、活発な交流ができた。</p> <p>今後は、全ての参加者が情報モラル教育を指導できる人材として、学校や様々な機会でも、情報モラル研修を企画し、実施していくことが期待される。以上のことから当セミナーは、十分に効果のある講習内容であったと評価できる。</p>				
セミナー開催後について	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	教育委員
	情報担当者会など開催予定	校内研修開催予定	教員研修(校内研修を計画中)	初任者の校内研修を計画	各市町村(学校組合)教育委員会や校内研修(指導事務担当者会)で計画
	校内研修開催予定	SNS・問題発生時の対策等の研修会			
校内研修計画	研修会計画				
セミナーの様子					

(2) 新潟市教育委員会 総合教育センター

開催日時	平成25年6月28日(金) 14時00分～16時40分
開催場所	新潟市立総合教育センター
参加者人数	27名 内訳：指導主事 1名 小学校教員 19名 中学校教員 7名
セミナーの狙い	各学校においてすべての教員が情報モラルを指導できるようため、学校における先進的な実践者を育成するための機会とする。
考察	「豊富な資料を用意していただき、参考になった」、「ワークショップの話し合いで、実践を紹介しあったことが参考になった」などの肯定的な感想が寄せられた。一方で「講話に内容を精選し、ワークショップの時間を確保して欲しかった」という感想が複数あった。
セミナー開催後について	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業中に実施する初任者研修(情報教育)の中に1時間設定する。 ・次年度の「情報モラル指導」研修の内容については、現場のニーズをふまえて、生徒指導的な内容で実施できないか検討する予定である。
セミナーの様子	

(3) 鳥取県教育センター

開催日時	平成25年6月29日(土) 13時30分～16時00分
開催場所	鳥取県教育センター
参加者人数	28名 内訳：教育委員会 3名 高等学校教員 2名 小学校教員 9名 特別支援学校 2名 中学校教員 9名 その他 3名
セミナーの狙い	情報モラル教育について、各教科での授業や校内研修などで活用できる提示用資料を用いた研修を行い、具体的な考え方やノウハウを身につけ、各学校に情報モラル教育が早急に普及するためのスキルを身につける。
考察	子どもたちを取り巻くネット社会の問題点について、より具体的な事例の紹介によって、ネット社会の知識が少なかった受講生の方々にも、身近な問題としてとらえていただけた。その上で、情報モラルの指導に関する理論や実践の仕方を学ぶことができ、具体的なイメージを持つことができた。そのため、後半のワークショップでは校種ごとに班を編成したこともあり、具体的な研修場面を設定して、どの班も活発な話し合いができていた。 本研修で、漠然と学校課題と感じておられた先生方にも、より具体的なイメージを持ち、情報モラル指導の重要性を感じてもらえる研修であった。
セミナー開催後について	鳥取県教育センターが企画する「専門研修」(希望者対象)で 1. 「道徳授業での情報モラル指導」(半日研修・2回) 2. 小学校における情報モラル指導の実践に学ぶ(1日研修・1回) 「悉皆研修」(高校初任研、中学校10経年研、中学校初任研)でも情報モラル指導をテーマとした研修がプログラムに入っている。
セミナーの様子	

(4) 市川市教育委員会

開催日時	平成25年7月25日(火) 13時30分～16時30分
開催場所	市川市教育センター
参加者人数	57名 内訳：指導主事 2名 特別支援学校教員 1名 小学校教員 39名 中学校教員 15名
セミナーの狙い	児童生徒が、インターネットやメールを介してさまざまなトラブルに巻き込まれている現状から、情報モラル教育の充実、実践が求められている。また、学習指導要領でも情報モラル教育の指導を進めることが明記されている。しかし、情報モラル教育の実践において、教員個々や学校ごとの取り組みに差があるのが現状である。そのため、本セミナーを開催することにより、受講者が各学校の情報モラル教育の中心となり、情報モラル教育を推進していくことを狙った。
考察	座学で知識を得た上で、Web教材「ネット社会の歩き方」を体験することにより、学校現場でどのように「情報モラル教育」を実践するかを考えることができた。
セミナー開催後について	本セミナーの受講者が各学校における情報モラル教育の中心となって校内研修を行う。
セミナーの様子	

(5) 千葉市教育センター情報教育部門

開催日時	平成25年7月25日(木) 9時00分～12時00分
開催場所	千葉市教育センター
参加者人数	16名 内訳：指導主事 1名 小学校教員 8名 中学校教員 6名 高等学校教員 1名
セミナーの狙い	子どもを取り巻くネット社会の現状を理解し、子どもたちに指導できるようになること。また、情報セキュリティ対策に対して教職員が理解することを目的とする。
考察	最新の情報をわかりやすく丁寧にご指導いただいた。受講生の感想として、記述する。 ・現在のネット社会の現状を知ることができた。そのような背景を理解したうえで、指導していきたい。 ・知っているようで、知らないことがたくさんあり、今後役立つ内容ばかりだった。
セミナー開催後について	毎年情報セキュリティ研修、情報モラル研修を実施している。 6月…情報セキュリティ研修(管理職対象) 7月…情報セキュリティ研修(希望研修) 7月…情報モラル研修(希望研修)
セミナーの様子	 

(6) やまぐち総合教育支援センター

開催日時	平成25年7月30日(火) 13時00分～16時00分		
開催場所	やまぐち総合教育支援センター		
参加者人数	33名 内訳：指導主事等 4名 高等学校教員 12名 小学校教員 8名 特別支援学校教員 1名 中学校教員 6名 その他(聴講教員) 2名		
セミナーの狙い	情報モラル教育に関する指導力を高めるため、情報モラル教育の知識や指導方法について研修する。		
考察	<p>講義は、現在の情報社会における影の部分に関して、実例を多く挙げられた。特に、スマートフォンをめぐるトラブルやその対策に関する説明は、学校の実態に沿った内容であり、たいへん有用な情報であった。受講者にとっては、研修全体を通じ、カリキュラムの中に位置づけた情報モラル教育の「知の領域」の指導の重要性について強く認識できたことは、大変有用であった。</p> <p>ワークショップでは、グループで選択した課題について話し合い、学校の課題に即した研修が進められた。学校に持ち帰り、二学期からすぐに活用したいという意見が受講者から多く出た。</p>		
セミナー開催後について	期日	実施場所	内容等
	8月 1日	田布施町立東田布施小学校	授業における情報モラル教育
	8月 8日	高特実習助手新採(所内)	情報モラル
	8月 21日	下松市立下松小学校	情報モラル教育
	8月 23日	中高特新任・ 小中高特養護新採(所内)	情報モラル
	8月 28日	光市立周防小学校	情報モラル
	9月 25日	小中事務新採(所内)	情報モラル
	10月 10日	小中事務主任・主査(所内)	情報モラル・個人情報保護
	11月 12日	小中高特(所内)	授業で育てる情報モラル教育
セミナーの様子			

(7) 野田市教育委員会

開催日時	平成25年8月5日(月) 9時00分～11時50分
開催場所	野田市立木間ヶ瀬中学校
参加者人数	34名 内訳：野田市教育研究会情報教育部会助言者 2名 指導主事 1名 小学校教員 20名 中学校教員 11名
セミナーの狙い	情報モラル教育の重要性を学び、各学校での校内研修ができるノウハウを学ぶ機会とする。
考察	今回の研修会の参加者は各学校の情報教育担当者が対象であったので、ネット社会の現状をある程度把握しており、状況に応じて児童生徒に指導できるが、今回の研修内容を各学校で広め、全ての教員が情報モラル教育を実施できるようにしなければならない。
セミナー開催後について	各学校での研修については未定。 平成26年2月に、野田市教育研究会研究主任部会において、短時間での研修を実施する予定。
セミナーの様子	

(8) 鹿児島市教育委員会

開催日時	平成25年8月6日(火) 13時00分～16時10分
開催場所	鹿児島市学習情報センター
参加者人数	21名 内訳：小学校教員 12名 中学校教員 2名 その他(ICT支援員) 7名
セミナーの狙い	<p>情報セキュリティや情報モラルについて見識を深め、授業や研修等でICT機器が安心・安全に活用できるように研修する。</p> <p>情報モデル教育の推進のために、講師的立場で研修の場を想定し、情報モラルの指導の在り方等について研修を深める。</p>
考察	<p>教育モラルに関する総論を聞き、ネットで使えるコンテンツなどを体験、そして、西田先生の具体的で分かりやすい話(実践例・事例、客観的なデータ等)を随所に入れてもらい、情報モラルについての基本的な考え方や概要を、受講者がつかむために大変参考になった。</p> <p>また、ワークショップによる研修計画、授業プランの作成、発表等の演習は、受講者が実践的な授業イメージをもつことができた。即使える研修展開案・授業案の作成の際のベースになった演習であった。</p> <p>セミナーの構成も、総論から始まり、具体的で実践的な成果物を作成するまで、受講者が無理なく、少しずつ理解を深める流れになっていた。</p> <p>アンケートの結果からも、受講者が大変満足しており、全体的に充実したセミナーを開催できたと考える。</p>
セミナー開催後について	来年度も、同様のセミナーを開催したいと考えている。
セミナーの様子	 

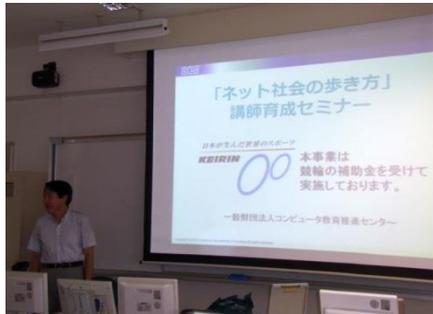
(9) 加東市教育委員会

開催日時	平成25年8月7日(水) 13時00分～15時50分
開催場所	加東市立社中学校
参加者人数	15名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 8名 中学校教員 5名
セミナーの狙い	教職員自身が情報ネットワークの有効性と危険性を認識することで、各校の情報モラル教育充実の一助とするため。
考察	子どもたちを取り巻くネット環境の現状や、情報モラル教育の進め方について学ぶことができた。また、ワークショップにおいては、「ネット社会の歩き方」を活用した授業のあり方について具体的に考えることができた。今後の授業や指導に生かすことができる実践的な研修だった。
セミナー開催後について	各小中学校において1回以上の開催を予定している。
セミナーの様子	

(10) 岐阜市教育研究所

開催日時	平成25年 8月8日(木) 14時00分～16時00分
開催場所	岐阜市教育研究所
参加者人数	73名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 47名 中学校教員 23名 特別支援学校教員 1名
セミナーの狙い	<ul style="list-style-type: none"> 最新のネットワークトラブルの事案を知り、児童・生徒に迫っている危険性を理解する。 情報モラル研修の進め方について理解し、各校にて情報モラル研修が確実に出来るようにする。
考察	<p>榎本先生より、今年度も最新の情報を紹介いただいた。昨年度この会で紹介いただいた「Line」が今年度岐阜市内で問題になっている。現在東京方面で問題になっていることが半年や1年後に岐阜市で問題になっている。最新の事案を紹介いただいたことで、予測される危険性を早めに知ることができた。</p> <p>各校で発生しているネットトラブルについて交流することで、他ごとではなく自分事として捉えることができた。</p>
セミナー開催後について	市内全小・中学校において12月までに児童生徒対象に必ず行う。小学校においては5年生、中学校においては1・2年生を対象に悉皆で行う。
セミナーの様子	 

(11) 佐賀県教育庁学校教育課

開催日時	平成25年 8月23日(金) 9時00分～12時00分
開催場所	佐賀県立佐賀商業高等学校 文書デザイン室
参加者人数	91名(第1部、第2部合計) 内訳：指導主事 2名 高等学校教員 49名 小学校教員 21名 特別支援学校教員 2名 中学校教員 17名
セミナーの狙い	新学習指導要領に基づいて全ての教員が情報モラルに関する指導ができるように、知識や技能を身に付け、地域や学校の研修等で情報モラルに関する指導を行うことができる講師を育成する。
考察	<p>佐久間先生の講義では、情報モラルに関する様々な課題をデータとともに示していただき、現在の状況や問題点について確認することができた。また、県内で導入が進んでいるタブレットPCについて、実際に2つの機種(IPadとWindowsPC)を比較しながら説明をしていただき、それぞれの特徴がよく理解でき大変参考になった。</p> <p>また、一般財団法人コンピュータ教育推進センターから出されている情報モラルに関する教材を紹介していただき、参加者から「授業で使ってみたい」という声が聞かれた。</p> <p>ワークショップでは、短時間ではあったが、グループ協議が活発に行われ、全体で発表したグループの計画の中には、学校で実行できそうな完成度の高いものがあった。</p>
セミナー開催後について	今年度1月に県内の保護者を対象に、情報モラル等についてのシンポジウムを開催予定。
セミナーの様子	 

(12) 佐賀県教育庁学校教育課長

開催日時	平成25年 8月23日(金) 13時00分～16時00分
開催場所	佐賀県立佐賀商業高等学校 文書デザイン室
参加者人数	91名(第1部、第2部合計) 内訳：指導主事 2名 高等学校教員 49名 小学校教員 21名 特別支援学校教員 2名 中学校教員 17名
セミナーの狙い	新学習指導要領に基づいて全ての教員が情報モラルに関する指導ができるように、知識や技能を身に付け、地域や学校の研修等で情報モラルに関する指導を行うことができる講師を育成する。
考察	<p>佐久間先生の講義では、情報モラルに関する様々な課題をデータとともに示していただき、現在の状況や問題点について確認することができた。また、県内で導入が進んでいるタブレットPCについて、実際に2つの機種(IPadとWindowsPC)を比較しながら説明をしていただき、それぞれの特徴がよく理解でき大変参考になった。</p> <p>また、一般財団法人コンピュータ教育推進センターから出されている情報モラルに関する教材を紹介していただき、参加者から「授業で使ってみたい」という声が聞かれた。</p> <p>ワークショップでは、短時間ではあったが、グループ協議が活発に行われ、全体で発表したグループの計画の中には、学校で実行できそうな完成度の高いものがあった。</p>
セミナー開催後について	今年度1月に県内の保護者を対象に、情報モラル等についてのシンポジウムを開催予定。
セミナーの様子	 

(13) 和歌山県教育センター学びの丘

開催日時	平成25年8月23日(金) 13時00分～16時00分
開催場所	和歌山県教育センター学びの丘
参加者人数	34名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 5名 中学校教員 10名 高等学校教員 17名
セミナーの狙い	情報の安全な活用についての具体的事例等を取りあげ、情報モラル認識を深めるとともに、情報モラル教育を推進するための指導力の向上を図る。
考察	青少年の携帯電話の利用状況を踏まえた上で、どのような情報モラル教育を実施していけばよいか、ケースを交えながら具体的ご教示いただいた。また、受講者にとっては、学校に持ち帰ってすぐに実践に取り組める教材や校内研修会用の資料等も提供いただけたので、大変有意義であったと思われる。
セミナー開催後について	本年度の研修の予定はない。ただし、市町村教育委員会または学校の要望により、情報モラル教育に係る要請講座(出前講座)があれば実施する。
セミナーの様子	

(14) 大分県教育庁教育財務課情報化推進班

開催日時	平成25年8月28日(水) 13時30分～16時00分
開催場所	大分県立芸術文化短期大学
参加者人数	29名 内訳： 指導主事 1名 高等学校教員 6名 小学校教員 8名 特別支援学校教員 4名 中学校教員 7名 その他 3名
セミナーの狙い	大分県教育委員会は、教育情報化を推進する上で、情報モラル教育は欠かせないと考えており、すでに県内教職員や生徒向けの情報モラル研修を様々な形で実施している。今回は、さらに学校での情報モラル授業を実践する教員を養成する目的で、小学校、中学校、高校、特別支援学校の先生を対象に希望者を募ってセミナーを実施した。
考察	前半の講義では、情報モラル教育の必要性や学校教育の中でどのように取り込んでいくかなど、子どもたちの現状に合わせてポイントを理解できた。後半のワークショップは、具体的に実践方法を考えることで、より現場で実践するためのイメージが湧いたと思われる。 参加者は情報モラル教育を始めて実践する教員から、すでにさまざまな実践を積んでいる教員まで様々だったが、全ての層において参考になるポイントがあったと思われる。 ただ、講義の中で取り上げた子どもたちのトラブル事例やコンテンツの中身が、少し古い感があった。できるだけ最新の情報を織り込みながら進めるともっとよいと思う。 また今回の参加者は30人程度だったが、ワークショップでは最後に全チームの考えた内容を共有することから、このくらいの人数がちょうどよかったと思う。
セミナー開催後について	大分県教育委員会が主催して、11月5日に実施する県立学校情報化推進リーダー研修にて、情報モラル研修を実施する予定。県立の高等学校および特別支援学校の各学校1名の推進リーダー(教頭)が対象となる。また12月5日の情報化推進員研修、平成26年2月3日の学校CIO研修においても、情報モラル教育について触れる予定である。その他、各学校の生徒、保護者向けの講習会は現在も継続して実施している。
セミナーの様子	

(15) 三木市立教育センター

開催日時	平成25年8月28日(水) 14時00分～16時50分
開催場所	三木市立教育センター
参加者人数	16名 内訳：幼稚園教員 1名 小学校教員 10名 中学校教員 3名 市教育委員会 2名
セミナーの狙い	情報モラル教育の必要性と学校でどのようなことから始めていけば良いのか具体的に解説してほしい。
考察	セミナー時間は2時間30分。前半は通常通りの講義形式で進行。後半のワークショップは「自分の授業を組み立てよう」をテーマとした。3人ないしは4人のグループで、各自が教材を選択し、授業の流れを考え、グループ内の先生を児童に見立てて模擬授業を5分で実施、相互に講評し合う。時間の制約があり、教材を多くは視聴できないが、具体的な授業での活用方法の理解には有効と考える。グループ毎にパソコンと電子黒板が準備されており、少人数の利点を活かした研修方法である。
セミナー開催後について	今回開催した情報モラル研修をふまえて、市内の各小中学校への展開を検討する。
セミナーの様子	

(16) 柏市立教育研究所

開催日時	平成25年8月29日(木) 13時30分～16時00分
開催場所	柏市沼南庁舎 PC研修室
参加者人数	15名 内訳：指導主事 4名 小学校教員 3名 中学校教員 3名 ICT支援員 5名
セミナーの狙い	小学校、中学校の教職員とICT支援員に対し「ネット社会の歩き方」を活用した具体的な指導方法や指導上の留意点について指導する。それによって、各教職員については各自の学校での研修等で展開を図り、ICT支援員については広く地域の学校で情報モラル指導を展開することを狙う。
考察	教育委員会の指導主事4名の他、セミナーへの参加者は11名であった。柏市ではICT支援員が市教育委員会に上通しており、市内の各小・中学校に適宜赴き指導を行っているため、常にスマホをはじめとする情報通信端末を利用した際に起こる問題や危険についての相談も実施しているためICT支援員の情報モラル教育を実施することにより、各学校での対応について指導できることから、ICT支援員と指導主事を中心とした研修となった。柏市教育委員会では教員1人1人ではなく、先導的なスキルを持った人材に広く情報モラル指導ができる能力を身につけること目的としているため、今回の「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーの開催となった。西田講師は児童生徒を取り巻く、インターネット、携帯電話やスマホなどに対する危機管理について講義方式で進め保護者への対応、スマホのLINEでの相談があった場合の対応など講演された。後半のワークショップは、「ネット社会の歩き方」のコンテンツを参考に各グループで1時間の情報モラルの授業を作成いただいた。積極的な発表となった。
セミナー開催後について	具体的な開催予定は検討中であるが、ICT支援員をはじめとして展開が図れるよう検討する。
セミナーの様子	 

(17) 大和市教育研究所

開催日時	平成25年10月1日(火) 15時00分～16時45分
開催場所	大和市役所分庁舎第2・3会議室
参加者人数	30名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 18名 中学校教員 9名 その他 1名
セミナーの狙い	情報教育の担当者に情報モラル教育について、理解を深め、意識を高めてもらう。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の情報モラルにおける諸課題について、各学校の代表が意欲的に研修に取り組むことができた。 ・各校での情報モラル教育の推進に大いに役立つ内容であった。また、資料が、冊子、WEB上のものと大変充実しており、各校での研修に活用しやすいものであった。
セミナー開催後について	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所としては、セキュリティも含めた内容で、しない全中学校で各1時間程度を行う予定。 ・各校においては、各校の計画に任せてあります。
セミナーの様子	

(18) 島根県教育センター

開催日時	平成25年10月17日(木) 9時00分～16時00分
開催場所	島根県教育センター 浜田教育センター
参加者人数	39名 内訳：指導主事 4名 小学校教員 15名 中学校教員 10名 高等学校教員 3名 特別支援学校教員 2名 (鳥取県特別支援学校教員1名、鳥取県教育センター研修生1名)
セミナーの狙い	児童生徒のインターネットや携帯電話などのネット端末に関する問題やトラブルを防ぎ、ネット端末を正しく使用していくため、学校における情報モラル指導の実践を図る。
考察	今回はじめて、教育センターが行う能力開発講座である「情報モラル講座」を「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーとして実施した。豊富な資料と藤村准教授のわかりやすい講義で、学校現場ですぐに実践できる内容でとても好評であった。受講者は学校現場に帰り、積極的に情報モラル教育を推進してもらえることと思う。
セミナー開催後について	平成26年度情報モラル講座(平成26年10月・松江市) 開催予定
セミナーの様子	

(19) 栃木県教育委員会

開催日時	平成25年12月2日(月) 13時00分～16時00分
開催場所	栃木県総合教育センター
参加者人数	32名 内訳：指導主事 2名 高等学校教員 7名 小学校教員 7名 特別支援学校教員 4名 中学校教員 6名 社会教育主事 2名
セミナーの狙い	情報化社会において、インターネット上の違法・有害情報等の取扱いに対して、責任をもって対処できる青少年や地域住民を育成するために、地域や学校における指導者としての資質の向上を目指す。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように指導すればよいかわからなかったのですが、すぐに使える教材や研修、保護者会で話すべき内容やデータを知ることができ、実践的で大いに参考になりました。 ・ワークショップで話し合いができたこと、他班の考えも聞けたことがよかった。 ・もっと資料を紹介していただきたいと思ったくらい色々な情報があり、勉強させていただきました。 ・いろいろな方との情報交換をしたり、教材等の紹介をしていただいていたよかった。 ・実践的な内容を教えていただき、とても参考になりました。 ・情報モラルに関しての多くの教材を紹介していただき、今後の授業に役立てていきたい。
セミナー開催後について	今年度は開催はありません。来年度は予算の関係で半日開催です。CEC様には今後お世話になる機会があるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。(一度開催したところが、また申しこんでもよろしいのでしょうか)
セミナーの様子	

(20) 鹿児島県教育庁義務教育課

開催日時	平成26年1月10日(金) 13時20分～16時45分
開催場所	鹿児島県市町村自治会館
参加者人数	367名 内訳：指導主事 29名 高等学校教員 95名 小学校教員 90名 特別支援学校教員 7名 中学校教員 88名 保護者 50名 その他 8名
セミナーの狙い	児童生徒の情報モラルについての調査・研究の成果を基に、いわゆるネットいじめ等に対応していくための各市町村教育委員会及び各学校の具体的な取組方法について県下へ普及する。
考察	実態に即した事例の紹介や、児童生徒への指導方法、保護者への啓発の在り方について、大変わかりやすく丁寧に御教示いただいた。また、豊富な資料を提供していただき、指導案づくりのワークショップも参加者が意欲的に取り組むことができた。
セミナー開催後について	今回の研修内容を各地区、各学校における研修に生かすよう要請している。
セミナーの様子	  

(21)「教育の情報化」推進フォーラム

開催日時	平成26年2月28日(金) 15時50分～17時40分
開催場所	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟
参加者人数	150名
セミナーの狙い	<p>C E C成果発表会「教育の情報化」推進フォーラムにて、「情報モラル指導体験ワークショップ」と題して、分科会発表を行った。分科会発表といっても、タイトルの通りワークショップをツールとして用いて、参加者に情報モラル指導を体験してもらう形式で開催した。</p> <p>参加者個々の指導力育成とともに、今年度開催してきたセミナーを更に広く展開することを狙い開催した。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートより、大変役立った：13、役だった：1の回答を頂き、95%から「役だった」との回答があった。また自由コメントには「もっと聞きたい」「実践的でとても良い内容でした」とのコメントを頂いた。 ・通常のセミナーでは一名の講師で対応するが、今回は5名の講師が対応することで、参加者に対しても十分なフォローや情報提供が出来た。 ・広い会議室にワークショップ実施のための会場づくりを行うことについては、短時間での対応に苦慮した面も見られた。次回開催時は改善する。
セミナーの様子	

2. 5 アンケート結果より

今年度開催したセミナーを評価することと、今後実施するセミナーに生かしてゆくため、受講者に対し、セミナー内容や提供した教材などに対する意見を確認するためアンケートを実施した。以下にそのアンケート結果を記載する。（「教育の情報化」推進フォーラムでは、同受講後アンケートを実施しなかったため、本項データには含まれない。）

今年度は19会場で計20回のセミナーを開催し、受講者は987名、内アンケート回収は829名であり、1会場での平均受講者は51.7名となった。鹿児島県教育庁にて開催したセミナーが367名と他に比べて特別に大規模なセミナーであったため、昨年の平均受講者43.5名を超える値となったが、鹿児島県教育庁でのセミナーを除いた値では平均受講者は34.2名となり、昨年度と比較して少人数でのセミナーが多くなっている。

今回アンケート回収率が83.7%とやや低くなったが、同じく鹿児島県教育庁にて開催したセミナーを受講した保護者50名が、こちらで用意したアンケートと質問内容がマッチしなかったため集計に含めないと処置したことが影響したと思われる。

(1) 受講者のプロフィール

①性別、年代について

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	無回答	合計
男性	88	199	234	136	3	4	664
	13.3%	30.0%	35.2%	20.5%	0.5%	0.6%	
女性	35	47	50	27	1	5	165
	21.2%	28.5%	30.3%	16.4%	0.6%	3.0%	
無回答	0	0	0	0	0	0	0
合計	123	246	284	163	4	9	829
	14.8%	29.7%	34.3%	19.7%	0.5%	1.1%	

受講者の男女比率については、昨年度と変わらなかった。年代別では20歳代が増え、50歳代が減少した。

②所属（校種）について

学校					行政	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他			
329	225	177	36	5	54	3	829
39.7%	27.1%	21.4%	4.3%	0.6%	6.5%	0.4%	

受講者の校種は、中学校、高等学校が比率として高くなり、相対的に小学校が低くなった。

③職名について

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
11	0	46	686	45	0	41	829
1.3%	0.0%	5.5%	82.8%	5.4%	0.0%	4.9%	

昨年に比べ校長職の比率が高くなったが、全体的にはほぼ昨年と同じ比率になっている。

④主な分掌分野について

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	無回答	合計
142	220	74	312	43	88	111	990
14.3%	22.2%	7.5%	31.5%	4.3%	8.9%	11.2%	

※複数回答可

昨年に比べ、生徒指導を担当される方の受講が増え、情報教育担当の方の比率が約5割から3割に減少した。

⑤担当教科について

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
266	36	57	39	62	86	88
英語	音楽	美術	書道	保体	その他	合計
23	8	12	4	48	57	786

(2) 受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

①過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか。

ある	ない	無回答	合計
285	541	3	829
34.4%	65.3%	0.4%	

②過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか。

ある	ない	無回答	合計
93	733	3	829
11.2%	88.4%	0.4%	

受講者の内、65.2%がこれまで指導者養成の研修会を受けたことがなく、88.1%が研修の企画や講師を行ったことがないとの回答であった。

今回のような研修をはじめて受けたという受講者は昨年度比で下がったが、研修の企画・講師をしたことのある受講者は昨年度、一昨年度と同等であった。

(3) 本セミナーの受講の動機

本セミナーの受講動機について

1: 情報教育の担当になっているため	331	32.6%
2: 情報モラル指導のレベルアップのため	438	43.2%
3: 上司からの指示があったため	153	15.1%
4: その他	93	9.2%
回答数	1015	

※複数回答可

昨年度の回答結果では「情報教育の担当になっているため」という理由が最も多く、「情報モラル指導のレベルアップのため」という回答は次に多かったが、今年度はその順位が逆転した。「情報モラル指導」ということについて、情報担当にお任せするという姿勢から、各々の先生がそれぞれの立場で指導し、そのため各々レベルアップする必要と認識されてきていることの現れかとも思われる。

(4) 本セミナーに対する評価

①本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

参考にならない	1	2	3	4	参考になる
	6	16	181	621	
3or4の回答比率					
96.7%					

受講者の96.7%から4段階評価で3以上、参考になるとの回答が得られた。

評価理由の自由コメントから…

コメントの中に多くみられた意見としては、「(説明など、セミナーの内容が) 具体的である、具体的事例が多い」(30件)、「(有効で、すぐに使える) コンテンツを紹介してもらえた」(20件)などがあり、このような点から本セミナーが今後の情報モラル研修会実施上の参考になると判断されたと思われる。

また、セミナーの後半で実施する「ワークショップ」に対する意見も多く(10件)、「他校の先生同士で情報交換ができた」「勉強になった」という良かったとの意見もあった一方、「時間がもう少し欲しい」との意見も見られた。会場によっては十分な時間を確保できなかった会場もあり、そのような場合は時間の都合上、「本日はワークショップの進め方になれるのが目的」とか、逆に受講者の聞きたいことを重点的に解説するなど、事前の準備や説明があっても良いかもしれない。

②本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

活用できない	1	2	3	4	活用できる
	2	11	204	604	
3or4の回答比率					
97.5%					

受講者の97.5%から4段階評価で3以上、参考になるとの回答が得られた。

評価理由の自由コメント

コメントの中に多くみられた意見としては、「(子どもにも、他の教員にも、) 保護者(にも紹介できる)」(17件)、「(すぐにでも使える、使いやすい) コンテンツ」(17件)、「(最新の、プレゼンに使える) データ(の提供)」(15件)などがあった。前項の「今後の研修の参考になったか」という質問に対する回答と類似している点が多いが、これらの傾向からも、今回提供した教材が受講者にとって活用できるものであり、有効なものであると判断できる。

その他には、「ネット社会の歩き方」に対する意見も多く(16件)見られ、「ためになった」「わかりやすい」「使えそうだ」というコメントがあった。今回のセミナーでコンテンツに直に接し、ワークショップで授業への利用方法を検討体験できたことで、実際の授業や研修でさらに利用されることと思う。

(5) セミナー開催後の研修予定について

本セミナー以降に、情報モラルに関連したセミナーや研修を開催する予定があるか。

1:開催予定はなし	437	57.7%
2:現在予定はないが計画する	196	25.9%
3:開催予定がある	93	12.3%
4:その他	31	4.1%
回答数	757	

情報モラル研修の予定はないが計画するという回答が、アンケート回答者の25.9%から得られ、開催予定があった受講者を含めると38.2%の受講者が情報モラル研修を行う予定との回答が得られた。

セミナー受講後に研修等を計画または予定する受講者が38.2%に止まってしまった原因については、セミナー受講動機の43.2%が「情報モラル指導のレベルアップのため」とあったように受講者自身のスキルアップのためと思われる。受講者コメントに、「校内研修を実施する」とか「研修開催は難しいが職員会などで展開する」など、可能な範囲で展開するという回答がみられた。勉強会の開催など可能な範囲、規模で、受講者の行動を期待したいと思う。

(6) その他の感想、意見について

感想、意見のなかで目立ったキーワードとしては「ワークショップ」(23件)、「情報モラル」(15件)、「ネット社会(の歩き方)」(9件)であった。

「ワークショップ」については、座学とは異なり、教員という同じ立場同士での情報交換ができたり、話し合いの中で検討を進め解決策を求めたりするという手法が参考になったとの意見であった。次に「情報モラル」については、その必要性を再認識した、具体的に情報モラル教育を見直す契機となったなど、コメントが見られた。そして「ネット社会(の歩き方)」については、Webコンテンツだけでなく、冊子教材も含めてわかりやすいとの評価を頂いた。

最後、4番目に多かったキーワードは「スマホ(、スマートフォン)」であった。今年度開催したセミナーの中でも「スマホ」というキーワードは頻繁に聞かれた。「スマホ」というまだ新しいデバイスは、先生方にとっても指導方法などがまだ定まっていないということもあるが、先生方自身も利用方法やわかっていないという話が聞かれた。自らが利用方法を理解することで、利用の際に注意する点など習得していくことになると思うが、先生方には是非これら新しいデバイスを積極的に利用してもらい、できれば逆手にとって「スマホ」を使った授業なども検討して頂ければと思う。

3. まとめ

近年、パソコンやタブレット、スマートフォンを中心とする携帯電話（以降、ケータイ）など、ICTが日常生活に欠かせないものとなり、子どもたちも学習や友達とのコミュニケーションなどにいつでも、どこでも頻繁に利用するようになってきている。今後は、パソコン、タブレットおよびケータイなどの特性を踏まえたインターネット利用など、積極的・主体的にICTを活用していく子どもたちを育成していくことが望まれる。

一方、インターネット上では、誹謗中傷などの「ネットいじめ」や青少年を対象とした犯罪や違法・有害情報、SNSなどへの「ケータイ依存」などの問題が数多く発生しており、これらの問題に適切に対応できるよう、「情報モラル」について指導することが必要となっている。

このような状況を受け、新学習指導要領では、その総則で「情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにする」などとして、すべての教科等においてすべての教員に情報モラル教育の実施を義務づけ、学校における情報モラル教育をさらに充実させることとした。

しかし、子どもたちのインターネット利用実態調査を見てみると、彼らがインターネットやパソコン、ケータイ等を利用するのは、家庭や友達の家、通学路などの学校外での使用が圧倒的に多く、このような学校外でのICT利用を適切なものとするためには、学校での情報モラル教育を行うだけでなく、保護者や地域住民の方々にも「情報モラル」について理解していただき、家庭での約束づくりや地域における「見守る目」作りなどを行っていただくことが必要である。そのような家庭や地域での「情報モラル教育」の推進が喫緊の課題となっていることは、文部科学省の『教育の情報化に関する手引』で、「第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携」としてわざわざ情報教育とは別に章を起こしていることでもわかる。このような家庭・地域と連携した情報モラル教育の実現を目指したのが、CECの「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」である。

CECでは、平成20～22年度に子どもたちと保護者・地域住民を対象に実施された「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の成果を受け、平成23年度からは、各学校の先生方が「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」や「情報モラル教育研修会（校内研修会・地域研修会）」の講師となることを可能とする「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを実施し、より多くの児童生徒、保護者・地域住民の方たちが情報モラルについて学ぶことができるようにし、また、スマートフォンの普及やゲーム端末からのインターネット接続など、これまでインターネットの入り口の中心であったパソコン以外での多様なプラットフォームの情報端末から各種教材を利用できるようタブレット向けの教材アプリの開発を行うとともに、「ネット社会の歩き方」の「情報モラル教育ポータルサイト化」も行った。

平成24年度は、中学生・高校生へのスマートフォンの急速な普及に伴い、無料通話ソフトや各種アプリの利用、ID連携などによる新たな危険が現出し、それへの対応が喫緊の課題となっていることから、中学生・高校生用テキスト『スマートフォン対応 中学生・高校生のためのネット社会の歩き方』を開発した。これにより、小学生から高校生までを対象にした情報モラル教育テキストがそろい、学校・家庭・地域での情報モラル教育がより行いやすくなった。さらに本年度は、全国で20回の講師育成セミナーを開催することで多くの方々に参加者頂き、これまで開発してきた教材、資料をより広く展開すると同時により積極的に教室でタブレット、スマートフォンを利用してみようというセミナーも試みた。

本事業は、子どもたちがネット社会に正しく対応できるようになることを目的としており、学校の先生が各教科等の中で情報モラル指導を正しく行うことができるよう、家庭では保護者や子ども自身が情報モラルを学ぶための一助となるよう情報を提供するものである。

本報告書は、これらの活動の成果と課題及びアンケート調査により明らかになった実態等について、記したものである。今後は、本事業の成果物を生かし、より多くの先生方が講師となって、家庭や地域での「情報モラル教育」がさらに普及していくことを期待している。

平成26年3月

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー検討委員会委員長
鳴門教育大学大学院准教授 藤村 裕一

＜付録＞アンケート質問票

アンケート イメージ

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー アンケート

1. 受講者プロフィール 該当する項目を○で囲んで下さい。

- ① 性別、年齢：男・女 20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代
- ② 所属：学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、その他) 行政
- ③ 職名：校長、副校長、教頭、教諭、指導主事、その他()
- ④ 主な分掌分野：教科指導、生徒指導、教務、情報教育、研修、その他()
- ⑤ 担当教科：小学校、情報、技家、国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、書道、保体、その他()

2. 過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。 1:ある 2:ない

3. 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。 1:ある 2:ない

4. 本セミナーの受講動機について、該当する項目の番号を○で囲んで下さい。(複数回答可)

- 1:情報教育の担当になっているため 2:情報モラル指導のレベルアップのため
- 3:上司からの指示、勧めがあったため
- 4:その他()

5. 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になりますか。

4段階で評価して下さい。また、そのように判断された理由をお聞かせ下さい。

参考にならない ○ ○ ○ ○ 参考になる
1——2——3——4

理由：

6. 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会実施の際に活用できますか。

4段階で評価して下さい。また、そのように判断された理由をお聞かせ下さい。

活用できない ○ ○ ○ ○ 活用できる
1——2——3——4

理由：

7. 本セミナー以降に、情報モラルに関連したセミナーや研修会を開催する予定がありますか。

1:開催予定はなし 2:現在予定はないが計画する 3:開催予定がある 4:その他

開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものですか。

()

8. 最後に、全体を通してご感想やご意見がありましたらご記入下さい。

講義概要：データから見るネット社会・情報モラル指導(理論編・実践編)・教材「ネット社会の歩き方」・保護者との関わり・
問題発生時の対応・ワークショップ

ご協力ありがとうございました。

第2章 ICT社会におけるコミュニケーション力の育成事業

はじめに

21世紀型コミュニケーション力を育成するワークショップ

コミュニケーション力について体系的あるいは教科横断的にどのように育成していくかは、新しい学習指導要領実施のタイミングで重要な課題である。

そこで、CEC「21世紀型コミュニケーション力育成に関する調査研究委員会」では、コミュニケーション力を育成する学習活動のための手引書を調査研究事業の一環として2冊発刊した。

ここでは、教員が自分でできる教科の学習活動を行うことによって、どこでどのようなコミュニケーション力の育成が可能になるのか、また、そのような力をほかのどの教科や領域の学習指導で関連して育成することが可能になるのかを検討することができる。

本調査研究では、小学校学習指導要領（一部、中学校）に対応させながら言語活動と情報活用能力をキーワードに、コミュニケーション力を『主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめ、メディアを適切に活用して伝え合うことにより深めていくことができる能力。』と定義している。

これをスキルの視点で捉えると、

「人やメディアにアクセスするスキル」

「複数の情報から必要な情報を取り出し新たに情報を生成するスキル」

「メディアを活用しながら表現・交流し合うスキル」

になる。

このようなスキルは学校の教育活動全体を通じて身に付いていくものであり、これを端的に「21世紀型コミュニケーション力」と称することにした。

この「21世紀型コミュニケーション力」は、全国の教員への実態調査や学習指導要領との関連から、協調的段階としての「対話」「交流」と、主張的段階としての「討論」「説得・納得」の4つの段階に整理した。

さらに、これらを実現する授業に活用できる研修モジュールを作成し、それを全国各地の学校や教育委員会主催の研修会で実施できるようにした。研修モジュールは、A:理論概説、B:課題改善、C:参加体験の3つから構成されており、さらにC:参加体験は、C-1:パネル討論、C-2:ブレインストーミング、C-3:ブレインストーミング+KJ法、C-4:イメージマップ、C-5:バズセッション、C-6:ポスターセッションで構成されている。本冊子は、2013年度のワークショップの実施状況を示したものである。

平成26年3月

「コミュニケーション力の育成」研修検討委員会委員長
放送大学教育支援センター 教授 中川 一史

1. 事業概要

1. 1 事業の目的

新学習指導要領において「言語活動の充実」がキーワードとして示されている。言語は、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、子どもの人間性の成長に深く関わっている。

昨今、企業の学生採用ではコミュニケーション能力を重視するにもかかわらず、21世紀を担う子どもたちは、コミュニケーション能力と密接な思考力、判断力、表現力等に課題と言われている。

気の合う限られた集団でコミュニケーションをとったり、上手にコミュニケーションをとっているつもりが、メールや各種サイトの書き込み等で自分の思いを一方向的に伝えている場合もとても多くなっている。

コミュニケーション能力が身につくと、集団の中で共に話し合い、学び合い、助け合うことの重要性を自覚できる。また、言語活動の充実により、感性が育まれ、情緒を養ったりすることが期待される。それにより、子供達相互の人間関係が良好になり、いじめや不登校、暴力行為などの問題への解決につながっていく。

それとともに、表現手法が工夫され、伝える力が向上することにより、メール等のICTを活用する場面においても、広く相互に理解し合える事が出来る。

CECでは、これからの社会・産業界で活躍するコミュニケーション能力の高い子どもたちを育成するために、「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」を、学習活動の中にどのように取り込んでいくか、指導をどのようにすすめていけばいいか、研修パッケージとして作成し、学校現場の先生方が子どもたちのコミュニケーション能力を育成する授業を実践できるようになることを目的としている。

本研修を受講された全ての先生方が、子どもたちのコミュニケーション能力を育成する授業につなげていただくためのノウハウを提供しようというものである。

1. 2 事業の内容

本委員会の母体である「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」委員会より、ご協力いただいている有識者を中心に検討委員会を構成し、全国の教育委員会や学校において、教職員と指導主事を中心とした「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」研修を20回実施した。

以下に、それら事業の概要を示す。

(1) 委員会の設置

当財団に委員会を設置し、「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」研修開催と、研修時に活用する研修テキストの開発、及び報告書の執筆、アンケートデータ分析などを行った。

検討委員名簿

委員長	中川 一史	放送大学 教授
副委員長	村井 万寿夫	金沢星稜大学 教授
委員	秋元 大輔	船橋市立塚田小学校 校長
	岩崎 有朋	鳥取県岩美町立岩美中学校 教諭
	久保 昌也	船橋市立小栗原小学校 校長
	佐藤 幸江	金沢星稜大学 教授
	佐和 伸明	柏市教育委員会 教育研究所 指導主事
	成瀬 啓	宮城県大崎市立鬼首小学校 教頭
	西田 光昭	柏市立中原小学校 校長
	山本 朋弘	熊本県教育庁 教育政策課 指導主事

(2) 「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」研修開催地の募集

以下の要領で育成研修の開催募集を行った。

- ・テーマ：「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」研修
- ・開催時期と時間

平成25年7月～平成26年3月（1回：一時間半～半日程度 原則）

- ・対象受講者と会場あたりの定員

指導主事または、教職員 約20名程度（目安）

（定員は目安であり、これを上回る、あるいは下回る人数での応募も妨げない。）

- ・開催会場

教育委員会や自治体の施設等、無償の会場

- ・研修の具体的な内容

研修の具体的な内容については、当財団に設置される「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成検討委員会」が貴教育委員会と協議して決定します。

本研修を計画する際に、いくつかのモジュールを組み合わせ、研修プランを作成します。研修モジュールのタイプは、以下の3つです。研修のテーマにあわせて、選びます。

A：理論解説

B：課題解決

C：参加体験

1. 3 事業の経過

今度の事業経過を以下に示す。

(1) 委員会

第一回 平成25年5月11日

今年度事業の検討と「ICTにおけるコミュニケーション力育成研修」の研修内容／テキスト／開催地募集／講師対応／役割分担等検討。

第二回 平成26年12月20日

開催内容の途中報告及び懸案事項検討／今年度実施成果の報告内容検討。

(2) 開催地

今年度開催した「ICTにおけるコミュニケーション力育成研修」は、全20カ所。

- ① 6月30日 船橋市立丸山小学校校内研修 会場：船橋市立丸山小学校
- ② 7月 8日 金沢星稜大学佐藤ゼミ 会場：金沢星稜大学
- ③ 7月17日 金沢星稜大学佐藤ゼミ 会場：金沢星稜大学
- ④ 7月30日 鳥取県岩美町内研修 会場：鳥取県岩美町立岩美中学校
- ⑤ 8月22日 大崎市鳴子地域小中学校授業力向上研修会（ICT活用研修会）
会場：大崎市立鬼首小学校
- ⑥ 8月22日 丸亀市立郡家小学校校内研修 会場：丸亀市立郡家小学校
- ⑦ 8月26日 船橋市立塚田小学校校内研修 会場：船橋市立塚田小学校
- ⑧ 9月18日 熊本県ワークショップ研修会(県南地区) 会場：熊本県立人吉高校
- ⑨ 9月26日 北九州立門司海青小学校研究発表会 会場：北九州立門司海青小学校
- ⑩ 10月2日 倉吉市立杜小学校校内研修 会場：倉吉市立杜小学校
- ⑪ 10月5日 高知県教育委員会教科研究センター講座 専門講座 会場：高知県教育センター
- ⑫ 10月7日 松戸市立馬橋小学校校内研修 会場：松戸市立馬橋小学校
- ⑬ 10月25日 全日本教育工学研究協議会全国大会 会場：旭が丘市民センター
- ⑭ 11月7日 熊本県ワークショップ研修会(県央地区) 会場：熊本県立宇土高校
- ⑮ 11月8日 熊本県ワークショップ研修会(県北地区) 会場：熊本県立菊池農業高校
- ⑯ 11月21日 佐賀市立赤松小学校校内研修 会場：佐賀市立赤松小学校
- ⑰ 11月29日 大崎市小中学校授業力向上研修会 会場：大崎市立鬼首小学校
- ⑱ 1月17日 和歌山市立小学校校長会情報研修 会場：和歌山市教育文化センター
- ⑲ 1月24日 佐賀市立若楠小学校研究発表会 会場：佐賀市立若楠小学校
- ⑳ 1月28日 大田原市教育委員会 言語力育成研究 会場：大田原市湯津上庁舎

平成26年

- 2月28日 国立オリンピック記念青少年総合センターにてCEC成果発表会開催
「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」事業報告を分科会Cとして開催。参加者 194名
- 3月 1日 「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」ワークショップを分科会Fとして開催。参加者 154名

2. 「コミュニケーション力の育成」研修の開催

2. 1 「コミュニケーション力の育成」研修の目的

小・中学校の学習指導要領においては、「言語活動の充実」がキーワードして示されている。

たとえば、小学校学習指導要領「第1章 総則 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の2. (1)において、「各教科等の指導にあたっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な拳固環境を整え、児童の言語活動を充実すること。」としている。

子どもたちのコミュニケーション能力向上のためには、教育に子供達の言語活動を充実する指導を取り入れる必要がある。

そのために、下記を検討した。

- (1) 全国の教員を対象とした「コミュニケーション力を指導するための研修」を開催し、各教科、領域において具体的な授業の流れや指導のポイント、テクニック、指導案、実践例、また、指導のためのコミュニケーション手法である「K J法」や「ブレインストーミング」「コンセプトマップ」といった思考ツールやICT機器を紹介し、今後の授業展開の参考とし示し、実際の授業に取り組むように指導する。
- (2) 指導に必要な教材、コンテンツなどの情報提供から、研修会計画の組み方などをワークショップで実体験できるようにした。

2. 2 研修の概要

本研修を計画する際に、いくつかのモジュールを組み合わせて、研修プランを作成する。研修モジュールのタイプは、以下の3つで、研修のテーマにあわせて、選ぶ。

A：理論解説

21世紀型コミュニケーション力育成の概要や考え方を理解する研修

21世紀型コミュニケーション力育成の概要や基本的な考え方について、教師集団で理解を深めたり、校内研修等での取組の方向性を確認する。

① 概説解説モジュール

「21世紀型コミュニケーション力」とは何か、「21世紀型コミュニケーション力能力表」を理解する。また、モデル授業を視聴し、「21世紀型コミュニケーション力の育成」を指導している授業のポイントを習得する。

② 能力表解説モジュール

コミュニケーションの行為を対話→交流→討論→説得・対話と設定し、各行為の力を身につけることを目指すための能力要素をまとめた「能力表」を理解する。

B：課題解決

21世紀型コミュニケーション力育成に向けた 課題解決や合意形成を行う研修

コミュニケーション力育成の授業改善において、課題を教師集団で考えたり集団意志を決定したりして、研修の中で教師間での意見の一致を図る。

① 授業研究モジュール

研究対象となる授業について、授業者が概要／意図を説明し、参加者が授業の工夫点／改善点を上げ、今後の授業改善の対策を検討していく。

② 指導案改善モジュール

改善したい授業指導案を、めざす授業である「21世紀型コミュニケーション力育成の指導案」に変えるにはどこを改善すればよいか、下記の思考ツールを活用し検討する。

C：参加体験

21世紀型コミュニケーション力の思考ツールを学ぶ研修

コミュニケーション手法である「ブレインストーミング」や「KJ法」、「イメージマップ」、「バズセッション」等の思考ツールを使い、あるテーマを使い教師が研修の中で実際に体験・習得し、実際の授業で子どもたちに活動させるようにする。

モジュール内容の種類

A:理論解説	1 概要解説 モジュール
	2 能力表解説 モジュール
B:課題改善	1 授業研究 モジュール
	2 指導案改善 モジュール
C:参加体験	1 パネル討論 モジュール
	2 ブレインストーミング モジュール
	3 ブレインストーミング+KJ法 モジュール
	4 イメージマップ モジュール
	5 バズセッション モジュール
	6 ポスターセッション モジュール

2. 3 セミナー開催団体一覧

表 採択された申請者と研修の担当講師一覧

No	開催日	申請者	申請者種別	地方	講師 メイン	講師 サブ1	講師 サブ2
1	6月18日	船橋市立丸山小学校	市教育機関	関東	佐和	秋元	
2	7月8日	金沢星稜大学	私立教育機関	北陸	佐藤	村井	秋元
3	7月17日	金沢星稜大学	私立教育機関	北陸	佐藤	村井	
4	7月31日	岩美町立岩美中学校	市教育機関	山陰	岩崎	中川	
5	8月22日	大崎市立鬼首小学校	市教育機関	東北	成瀬	久保	
6	8月22日	丸亀市立郡家小学校	市教育機関	四国	岩崎	西田	
7	8月26日	船橋市立塚田小学校	市教育機関	関東	佐和	秋元	久保
8	9月18日	熊本県教育庁	県教育機関	九州	山本	中川	
9	9月26日	北九州市立門司海青小学校	市教育機関	九州	山本	中川	
10	10月2日	倉吉市立杜小学校	市教育機関	山陰	岩崎	成瀬	
11	10月5日	高知県教育委員会	県教育機関	四国	村井	岩崎	
12	10月7日	千葉県松戸市立馬橋小学校	市教育機関	関東	佐和	久保	岩崎
13	10月25日	全日本教育工学研究協議会 全国大会(仙台)		東北	山本	中川	佐藤
14	11月7日	熊本県教育庁	県教育機関	九州	山本	中川	佐藤
15	11月8日	熊本県教育庁	県教育機関	九州	山本	佐藤	
16	11月21日	佐賀市立赤松小学校	市教育機関	九州	山本	中川	
17	11月29日	大崎市立鬼首小学校	市教育機関	東北	成瀬	西田	佐和
18	1月17日	和歌山市教育委員会 和歌山市立教育研究所	市教育機関	関西	秋元	村井	
19	1月24日	佐賀市若楠小学校	市教育機関	九州	山本	中川	
20	1月28日	栃木県大田原市教育委員会	市教育機関	関東	秋元	メイン 西田	

2. 4 開催団体からの報告

コミュニケーション力の育成研修の開催団体からは、研修開催ご実施報告書を提出してもらう。開催団体からの実施報告書（抜粋）を以下に示す。

(1) 船橋市立丸山小学校

開催日時	平成25年6月18日(火) 15時15分～16時40分
開催場所	船橋市立丸山小学校
参加者人数	23名 内訳：指導主事 3名（社会教育主事含む） 小学校教員 20名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	市の研究奨励校として、一層の研究内容の共通理解と研究に対する士気高揚を図る。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動が多い中、「21世紀型コミュニケーション力」について、共通理解が図られたことはよかった。 ・実践の積み重ねは大切であるが、児童の変容の検証が難しい。評価法を工夫する必要がある。
研修開催後についてのアクション（研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい）	7月の4年・6年の国語の研究授業において、児童相互のコミュニケーション活動の充実を図った。
研修の様子	

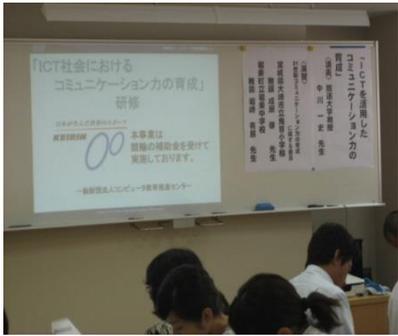
(2) 金沢星稜大学

開催日時	平成25年7月8日(月) 16時10分～17時40分
開催場所	金沢星稜大学
参加者人数	9名 内訳：指導主事 名 (社会教育主事含む) 小学校教員 名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 学生(学部2年生) 9名
研修の狙い	○21世紀型のコミュニケーション力として「対話、交流、検討、納得説得」があることを理解し、自分たちの話し合いが、どこを目指しているか考えながら話し合えるようにする。 ○ブレインストーミングの方法を知り、その方法を使って、学生が参加する金沢市立小坂小学校における「水泳指導における留意事項」に関する意見をまとめる。
考察	○ゼミでの実践である。本ゼミ生は、大変に意欲的ゼミに参加しているが、中には「話し言葉での表現より、書き言葉での表現」を得意とする学生もおり、話し合いが全員参加で行われないという様子が見られた。そこで、話し合って集団思考のスキルアップをする方法を理解することで、全員参加のゼミをめざした。 ○当日は、プレゼンシートが分かりやすくできていて、さらに講師自身が行った小学校の実践を使って、「対話と交流」の違いを検討するなどして、前半のねらいである「対話、交流、検討、納得説得」は理解しやすかったと感じた。次に、ブレインストーミングの方法をプレゼンを使って説明をしたが、これもプレゼンシートが分かりやすかったので理解しやすかったと感じた。その後、活用の場として「水泳指導における留意点」について、それぞれ自分の考えを付箋に書き出し、意見を出し合った。以前に「運動会に参加するときの留意点」を話し合ったときよりも意見が多々出されたとし、何より全員の意見を出して整理することができたのは、大きな収穫であった。 ○参加者を2グループに分けて、ブレインストーミングを実施した。両方とも安全に留意する意見は共通していたが、水球の部活をしていた学生のいたグループは、より具体的な指導に関する留意事項が出されていたし、もう1つのグループは「いのちを守る」という視点での話し合いがなされていて、興味深かった。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	○研修に関する感想を聞いたが、このように全員参加で、集団で考え合う活動の大切さやその方法を知ることができよかったという感想が、多く聞かれた。 ○2つのグループをつかってブレインストーミングを行ったが、それぞれが共通する事項、違った視点での事項が出されていた。そこで、それをまとめて「水泳指導における留意点」として冊子をつくり、実際の水泳指導のサポートに入る際に持参することとした。
研修の様子	

(3) 金沢星稜大学

開催日時	平成25年7月17日(水) 8時50分～10時20分								
開催場所	金沢星稜大学								
参加者人数	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">名 内訳：指導主事</td> <td style="width:50%; text-align:center;">名 (社会教育主事含む)</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">小学校教員</td> <td style="text-align:center;">名 特別支援学校教員</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">中学校教員</td> <td style="text-align:center;">名 研究教諭・研究員</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">高等学校教員</td> <td style="text-align:center;">名 他 学生(学部1年生) 14名</td> </tr> </table>	名 内訳：指導主事	名 (社会教育主事含む)	小学校教員	名 特別支援学校教員	中学校教員	名 研究教諭・研究員	高等学校教員	名 他 学生(学部1年生) 14名
名 内訳：指導主事	名 (社会教育主事含む)								
小学校教員	名 特別支援学校教員								
中学校教員	名 研究教諭・研究員								
高等学校教員	名 他 学生(学部1年生) 14名								
研修の狙い	○イメージマップの方法を知り、その方法を使って前期の学生生活に関する振り返りを書くための、取材を行う。								
考察	<p>○ゼミでの実践である。本ゼミ生は、学部1年生であるため、これまで初年度の取組として「知へのステップ」という本を使って、論文の書き方を学んできた。その延長として、本研修をプログラムを活用してイメージマップを使って取材する方法を研修した。</p> <p>○当日は、3グループに分かれて、まず大学生活のスタート時にあった「山中研修」での出来事に関して、イメージマップで思考を広げた。共通体験であったので、それぞれのグループで楽しそうに取り組む姿が見られた。その後、各グループのイメージマップを交換し、自分たちのグループのものと比較し、それぞれが「山中研修」でどのような体験をしていたのか、どのような思いをもっていたのかを共有した。どのグループからも「不安」と「友だちができた」というキーワードがあるのを確認できた。その後、「では、その後の学生生活は？」ということで、自分自身の振り返りを行った。グループで一度イメージマップの書き方を体験していたので、一人でマッピングを行うのも、スムーズにできていた。</p> <p>○時間がなくて、マップから文章をおこすところまでいかなかったが、それぞれが振り返りの視点をもった振り返りのレポートを書くことができた。</p>								
研修開催後に いてのアクション (研修開催後に、 どのように 研修内容を活か したのかをお書 き下さい)	<p>○研修に関しての感想を聞いた。学部の1年生は、あまりまだ大学での学び方に楽しさを感じていない学生もいたのであるが、この研修では、意欲的に取り組む様子が見られた。自分の生活を様々な視点で振り返ることができたと好評であった。</p> <p>○3つのグループをつかってマッピングを行ったが、それぞれのグループで出てきた内容が違うことに驚いていた。また、この方法を使って、取材してみたいという意見があった。</p>								
研修の様子	 								

(4) 岩美町立岩美中学校

開催日時	平成25年7月31日(水) 9時00分～12時00分
開催場所	鳥取県岩美町立岩美中学校
参加者人数	65名 内訳：指導主事 名 (社会教育主事含む) 小学校教員 35名 特別支援学校教員 名 中学校教員 30名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	コミュニケーション能力を高めるための ICT 活用について理解を深め、今後の具体的な授業実践のヒントを得る機会とする
考察	<p>町内には3つの小学校と1つの中学校がある。小中のつながりを意識しながら今までも教育を行ってきたが、今回は CEC のコミュニケーション力の能力表という教科を越えた共通する部分での系統性のある指標を使いながら、育ちのつながりを意識する研修になった。</p> <p>グループを低・中・高学年・中学校とわけることで、能力表の特定の部分に焦点を当てて、その力を高めるために ICT をどのように活用するのか、具体案を考えることができた。</p> <p>また、ポスター発表形式にすることで、他の学年、他の校種がどのような取り組みを通して、コミュニケーション力をつけようとしているのか、情報交換をする場面が設定できた。このことで、年齢を軸としたコミュニケーション力と ICT 活用について考える機会になった。</p> <p>能力表は、学年・校種・教科を越えた部分でコミュニケーション力を考える共通のものさし的な役割を果たすので、このような研修ではとても使いやすいものだと感じた。</p>
研修開催後に ついてのアクション (研修開催後 に、どのように 研修内容を活か したのかをお書 き下さい)	<p>校内には独自に「話す・聞く」の指標というものがレベルごとにある。それらは平易な表現で生徒自身が分かりやすい指標だが、それに合わせて、討論や説得するとき、内容的な部分で一步踏み込んで考えさせるためにも、能力表の表現には役に立つと感じている。</p> <p>話す側、聞く側が本質的にどのようなことを意識すると、討論になるのか、説いたのかを説明になるのか。そういうことを意識しながら教師自身が授業するだけでも、ないように深まりが増すように思う。</p>
研修の様子	 

(5) 大崎市立鬼首小学校

開催日時	平成25年8月22日(木) 13時00分～17時00分
開催場所	大崎市立鬼首小学校
参加者人数	35名 内訳：指導主事 名 (社会教育主事含む) 小学校教員 33名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 2名
研修の狙い	①普通教室におけるICT機器の活用の事例を学ぶことで、各教科における効果的な指導方法を探るとともに、授業力を培う。 ②各種機器の操作方法を学ぶことで、ICT活用指導能力を培う。 ③「21世紀型コミュニケーション力」について理解し、授業のあり方を探る。 ④地区内の教職員同士の交流を通して、授業や行事等の情報交換を行う。
考察	研修は、「大崎市鳴子地域小中学校授業力向上研修会」として、地域の教員の実状をふまえ、以下の3部構成で行った。 ・研修① 講座 「ICT活用で広がる学び」 ・研修② ワークショップ 「21世紀型コミュニケーション力」 ・研修③ ICT機器実技研修会 ○実物投影機活用研修 ○電子黒板活用研修 ○デジタル教科書活用研修 21世紀型コミュニケーション力ワークショップでは、理論解説とともにモデル授業を視聴し、「21世紀型コミュニケーション力」の概要と、その授業の具体を学んだ。その後、ブレインストーミング+KJ法により、「21世紀型コミュニケーション力を付けるための授業を考えよう」というテーマで、授業作りワークショップを行った。低・中・高・特別支援毎にグループを作り、それぞれのクラスの実態をもとに、2学期からすぐ始めることができるような手立てや、各教科の授業等、バラエティに富むものができあがった。山間の小さな学校が多い地域のため、日常からコミュニケーション力不足を感じている先生方が多く、共通の課題意識のもと、授業作りを行うことができた。2学期からの実践に期待が持てるものであった。 今回の研修では、児童のコミュニケーション力の向上に寄与するため、各教科の授業の中で、ICT機器をどのように使って、どのような授業を行っていけばよいかを考えることができた。また、教科の授業だけでなく、普段の生活中での実践のあり方考えることができた。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	2学期に入り、先生方一人一人が「21世紀型コミュニケーション力」を意識して授業を行うようになった。このような授業内での取り組みは、日常生活の中でも生かされ、総合的に力が高まってきたと思われる。
研修の様子	 

(6) 丸亀市立郡家小学校

開催日時	平成25年8月22日(木) 13時30分 ~16時30分
開催場所	丸亀市立郡家小学校
参加者人数	30名 内訳: 指導主事 名(社会教育主事含む) 小学校教員 30名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	本校の現職教育の研究主題は、「伝え合い、響き合い、ぐんぐ伸びる郡家っこの育成」である。具体的には、児童の思考力・判断力・表現力の育成を中心に研究を進めている。しかし、ICTの活用やコミュニケーション力の育成には、まだ手探りの状態である。本研修が今後の郡家小学校の研究に大いに役立つと考え、研修を実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生(岩崎先生)の優しい語りかけ、話術、プレゼンに、はじめは緊張していた職員もすぐに打ち解け、研修に引き込まれていった。 ・事前の打ち合わせを踏まえ、ブレインストーミングのテーマを、「コミュニケーション力を伸ばすための授業を支える ICT 活用」に設定した。本校は、コミュニケーション力の育成にも課題があるが、ICTの活用が十分に進んでいないということもあり、大変ありがたいテーマであった。ここ1年くらいで、先生方の中に、ICT機器を使って授業をしようという気持ちが高まってきている中で、ブレインストーミングだったので、意見やアイデアも予想以上に多く出された。 ・KJ法に関しても、積極的に取り組むことができていた。発表では、どのグループも2分という制限時間を守りながらも、要点を押さえた発表ができていた。 ・教師がブレインストーミングやKJ法を用いるということは今後積極的に活用されていくのではないかと感じたが、これらの手法を子どもたちにどう落としていくかが課題であると感じた。ただ、21世紀型コミュニケーション能力表の先生方の評価は高く、各教科で能力表を意識した授業づくりができればと感じている先生方は多い。 ・研修後の先生方の満足度は高く、大変有意義な研修を実施することができたと思う。
研修開催後にしているアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で行われた研究授業後の討議は、従来からもKJ法を用いて行っていたが、研修開催後の研究討議は、その内容がさらに活性化されたように感じる。 ・本校で10月に実施された丸亀市南学校群小・中人権同和教育研修会では、6本実施された公開授業で、3年と6年が付箋紙を用いた話し合い(KJ法?)を行った。研修を実施したことで、子供たちの話し合いを活性化させるために、KJ法を取り入れて・・・という考え方が広まってきている。 ・5年5組の社会科の授業で、ブレインストーミング、KJ法を用いての授業を実施した。「情報化した社会とわたしたちの生活」の単元で、情報を活用するうえでの光と影の部分について話し合い、情報を選んだり発信したりするときに注意しなければならないこと、自分ならこのように活用したいということについてブレインストーミングの手法を用い、意見を付箋紙に書きだした。 それをKJ法の手法を用いて、携帯電話、スマートフォン、SNSを上手に活用するための話し合いを行い、自分たちなりの考えをまとめ、発表した。 理想や建て前で話し合いが進むのではなく、子どもたちの本音を話し合いでぶつけ合うことができたと思う。
研修の様子	 

(7) 船橋市立塚田小学校

開催日時	平成25年8月26日(月) 13時30分～15時00分
開催場所	船橋市立塚田小学校 図書室
参加者人数	41名 内訳：指導主事 0名 (社会教育主事含む) 小学校教員 41名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 本校の研究主題を、本年度より「伝えあい学び合う算数科学習～自ら考え、表現する児童の育成～」としたため、伝えあい学び合うためにはコミュニケーション能力の育成が必要であると考えた。 コミュニケーション能力が育成されたかどうかを評価するためには、本事業で開発されたコミュニケーション能力表を活用することで一つの評価指標として役立つと考え、その内容を理解するために本研修を実施することとした。
考察	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力には、様々な捉え方があるが、一つの捉え方としてこのような捉え方があるということを理解した。 本校の研究主題を、本年度より「伝えあい学び合う算数科学習～自ら考え、表現する児童の育成～」としたため、伝えあい学び合うためにはコミュニケーション能力の育成が必要であると考えたが、実際に研修を受けてみて、それが必要なことが理解できた。 コミュニケーション能力が育成されたかどうかを評価するためには、本事業で開発されたコミュニケーション能力表を活用することで一つの評価指標として役立つと考え、説明していただいたが、コミュニケーション能力表の見方、考え方がよくわかり、研究授業の指導案作成時にとっても参考になると実感した。 全国の先進的かつ手本となる授業の様子を動画で紹介いただいたので、大変参考になった。
研修開催後についてのアクション (研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の指導案の中に、コミュニケーション能力が育成されたかどうかを評価するための評価項目として、本事業で開発されたコミュニケーション能力表を活用して、その項目を盛り込むことで、コミュニケーション能力の育成の意識が芽生えた。また、授業後も、その評価項目に基づいて、コミュニケーション能力の育成が本授業で図れたかどうかを判断することが出来た。 コミュニケーション能力の育成が、日常的な活動の中でも大切だという認識が生まれ、次年度の研究では、コミュニケーション能力の育成を研究の柱の一つとして研究を進めていく方向性が検討された。(現時点ではどうなるか未定)
研修の様子	

(8) 熊本県教育庁

開催日時	平成25年9月18日(水) 13時30分～16時30分
開催場所	熊本県立人吉高等学校
参加者人数	48名 内訳：指導主事 3名(社会教育主事含む) 小学校教員 25名 特別支援学校教員 名 中学校教員 17名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他(市町村教委担当者) 3名
研修の狙い	熊本県「教育の情報化」に関する好事例ワークショップ【県南】(熊本県教育庁) 21世紀型コミュニケーション力について理解し、ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解する。
考察	<p>本研修では、以下の流れでワークショップを展開した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「21世紀型コミュニケーション力・能力表」について理解する。 2. モデル授業を視聴し、コミュニケーション力育成についてまとめる。 3. ワークショップのねらいを知る。 4. ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解する。 5. ブレインストーミング 6. 「KJ法」や「クロス法」の概要と進め方を理解する。 7. 出されたアイデアをもとに、グループごとに話し合う。 8. グループごとに発表する。 9. 研修のまとめをする <p>熊本県内の教育の情報化を推進するためのイベントの中で、ICT社会におけるコミュニケーション力育成のワークショップを取り入れて、ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解することができた。</p> <p>今回は、ブレインストーミングを取り上げたことで、参加者全員で意見を出し合い、新たなアイデアを生み出すための手法を理解することができ、とても有意義なワークショップとなった。</p> <p>ワークショップに詳しい外部講師を派遣してもらい、テキストやスライド等も事前に準備してあったので、開催者の負担が少なく、研修内容の充実につながった。</p>
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	<p>本ワークショップを受講した各学校の代表者が、学校に戻ってから、校内での研修において講師となって、ワークショップの内容を伝えるようにしたので、今回のワークショップの内容が教師間でさらにひろがっていくことが期待できる。</p> <p>また、各地域の教育事務所の指導主事も一緒に参加していたので、各地域の研修等でワークショップの内容を取り入れていくようにした。受講者の中から、ワークショップの内容を授業の中で活かすことができたとの声もいただいております、研修成果が確実に現れている。</p>
研修の様子	 

(9) 北九州市立門司海青小学校

開催日時	平成25年9月26日(木) 14時00分～17時00分
開催場所	北九州市立門司海青小学校
参加者人数	150名 内訳：指導主事 名(社会教育主事含む) 小学校教員 50名 特別支援学校教員 名 中学校教員 20名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 80名
研修の狙い	研究主題『各教科等におけるICTを活用した「わかる授業」の創造』 電子黒板を活用した授業公開・講師による講演等を通して、子ども達の考える力や表現する力、そして対話でコミュニケーション力を高めることについて提案する。
考察	研究発表会前に、貴センターの研修テキストをもとに職員研修を行った。講師として、熊本県教育庁指導主事の山本 朋弘先生をお招きした。 研修の中で、21世紀型コミュニケーション能力について、①対話、②交流、③討論、④説得・納得のレベルにわけていることやそれが、協調的レベルから主張的レベルに高まることなどを学んだ。また、レベル1が1～2年生程度、レベル2が2～4年生程度、レベル3が3～5年生程度、レベル4が5～6年生程度と位置づけられていることも学んだ。さらに、各レベルで「聞く・わかる」「話す・伝える」を位置づけ、会話の中でコミュニケーション力を育てようとする考えがわかった。 本校の研究では『理解』『表現』『対話』『思考』という言葉を使っていたので、貴センターの冊子に書かれていることと照らし合わせながら整理していった。ニュアンスは若干違うものの、求めようとする能力については同じものを感じた。併せて、この研修ではブレインストーミングを体験した。実際に経験することで、授業の中で子ども達に同じように提示できると感じて、心強く思った。研究発表会では、子どもの発言や発表を元に『対話』する場面を位置づけて授業構成した。しかし、実際の授業では、①対話、②交流、③討論の内容になっていたと捉えている。④説得・納得のレベルは大変難しいと感じた。今後の研究では、本校で提示している『対話』を系統づけた内容で提示し直し、①対話、②交流、③討論、④説得・納得のレベルが機能していけるような取組の必要性を感じている。今後も貴センターの資料を参考にしながら、鋭意、研究を継続していきたいと考えている。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	上記に示したように、本校で提示している『対話』と、貴センターが提示している①対話、②交流、③討論、④説得・納得のレベルのすり合わせや、より具体的な再構築が必要だと感じ、現在も検討を重ねている。また、「聞く・わかる」「話す・伝える」についても同様に、本校の取組とのすり合わせを行っているところである。 子ども達が生き生きと自分の考えを出し合い、活発に話し合いながら新たな考えを創り出したり、より深い考えを導いたりできるように、今後も取り組んでいきたい。 研究発表会終了後、校内の職員研修会ではKJ法を取り入れたり、バズセッションを取り入れたりして実際に教職員が体験を通して、様々な話し合いの仕方を学んでいる。それらの体験を通して、今までの研修よりも話し合いが活発になり、参加度も上がっているように感じている。 さらに、3学期に元プロ野球選手を招いての講演会を予定している。その際には、貴センターの冊子に書かれているパネルディスカッションを取り入れたいと考え、現在細案を作成中である。全校児童、保護者を対象とした講演会なので、フロアを交えての意見交換の進行は難しいと考えるが、ただ話を聞くより少しでも参加できるような形態を模索したいと考えている。これらの経験を通して、「話す楽しさ」「聞く楽しさ」を感じ取らせたいと考えている。
研修の様子	 

(10) 倉吉市立社小学校

開催日時	平成25年10月2日(水) 14時35分～16時45分 授業参観は11:25より
開催場所	倉吉市立社小学校
参加者人数	27名 内訳：指導主事 2名 (社会教育主事含む) 小学校教員 25名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	21世紀型コミュニケーションスキルについての理解を深め、本校の研究の要である活用型学力の育成につなげる。
考察	<p>●以下の内容で実施した。</p> <p>1 講義 21世紀コミュニケーションスキル研修 CEC 講師 山本朋弘指導主事</p> <p>2 授業研究会 CEC 講師 岩崎有朋教諭 授業</p> <p>2年A組生活科 指導者：大木公子 「もっと知りたいな町のこと ～社のすてきを見つけよう～」</p> <p>3年A組総合的な学習の時間 指導者：田中靖浩・門脇絵美 「やしろの名人のすごいところを伝えよう その2 焼き物名人の窯元さんに学ぼう」</p> <p>研究協議</p> <p>①思考・判断の力、分析・整理の力、表現力の育成につながる学習過程の工夫は適切か。</p> <p>②協働学習のあり方は適切か。</p> <p>●明らかになったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の授業で、1枚のふせんに1つの内容を書くことが、きちんと指導してあった。ワークシートにどこに、何を書くかが良く分かるように支援してあった。 ・めあてにある「分かりやすく」という意味は、どういうことか突き詰めて考えることが大事。 ・21世紀型コミュニケーション力の4つの段階 ①対話②交流③討論④説得・納得 ・活動の手立てが順序良く、子どもたちが見通しを持って活動に取り組んでいた。 ・ジグソー的な手法で、聞き手を意識して活動することができる。自分のグループにかえてから説明をしなければいけないので、子どもたちに課題意識が生まれる。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	<p>●11月に次の授業研究会(研究発表大会)を実施する。その授業の構築に向けて、研修の成果を生かして、協働的な学習の授業の組み立てについて、校内で話し合い、授業者も良いイメージを持って、授業構想を立てることができた。</p> <p>●各学年で総合の年間指導計画を作成する際に、21世紀コミュニケーションスキルの育成を、カリキュラムの中に意識的に仕組むことができるようになった。職員の意識が変わりつつある。</p>
研修の様子	

(11) 高知県教育委員会

開催日時	平成25年10月5日(土) 9時00分～12時00分
開催場所	高知県教育センター(高知県高知市大津乙181)
参加者人数	21名 内訳: 指導主事 2名(社会教育主事含む) 小学校教員 7名 特別支援学校教員 3名 中学校教員 1名 研究教諭・研究員 1名 高等学校教員 4名 他 大学生 3名
研修の狙い	教科・領域に特化した専門的指導力の向上を図るため、コミュニケーション能力の要素や思考のツール等について研修し、「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」を目指した指導の在り方について学ぶ機会とする。
考察	<p>「コミュニケーション」という言葉は勿論のこと、参加した多数の教員は何らかの機会に「ブレインストーミング」「KJ法」「イメージマップ」などの用語を認知し、それらの手法を用いて意見を整理し問題解決に結びつける行動を実践している。</p> <p>しかしながら、参加者には大学生も含まれており、必ずしも全ての参加者がそれぞれの用語を正しく理解し、その方法の理論的な意味づけや手法の在り方を認識して実践しているわけではないようであった。</p> <p>また、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員と教育行政に携わる者など、異なる校種、職務内容の参加者で構成されていたため、目の前にいる児童生徒の能力の段階も異なるものであった。</p> <p>本研修会では、21世紀型コミュニケーション力の基本的な考え方を理解したうえで、その力を育成するための、「支える力」として「コミュニケーション能力表」で示す各段階(対話-交流-討論-説得・納得)が必要なことを演習を通じ体得した。</p> <p>各グループは異なる校種の者が交わり、「子どもたちに学校を好きにさせる方法」というテーマでアイデアを練り合った。</p> <p>このため、それぞれが異なる立場で、対話を行い、交流し、討論したうえで、互いに説得し納得するプロセスをブレインストーミングの手法で具現化することができた。</p> <p>今後、コミュニケーション能力の段階を念頭に置き、教職員の協議の場や児童生徒の活動等において、各思考ツールを有効に活用していこうとする前向きな研修後の感想が多く、研修の内容についても概ね満足している様子であった。</p>
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	アンケート結果より、各受講者が、個々の校務分掌上の立場に応じて活用することを確認した。
研修の様子	 

(12) 松戸市立馬橋小学校

開催日時	平成25年10月7日(月) 14時45分～16時45分
開催場所	松戸市立馬橋小学校 会議室
参加者人数	25名 内訳：指導主事 名 (社会教育主事含む) 小学校教員 22名 特別支援学校教員 3名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・授業展開のあと、21世紀型コミュニケーション力の指導についての教師の支援のあり方を振り返る。 ・全体協議会のもち方について研修する。
考察	<p>講師 船橋市立中野木小学校 校長 久保昌也先生 柏市教育委員会美中学校 教諭 岩崎有朋先生</p> <p>1. 21世紀型コミュニケーション力指導について 2. 授業展開について 3. 全体協議 今後の展開について</p> <p>21世紀型コミュニケーション力について、本校の研究に合わせてご指導いただいたあと、授業展開についてブレインストーミング・KJ法で成果と課題を明らかにすることができた。</p> <p>低・中・高学年で展開した授業について、21世紀型コミュニケーション力のねらいに迫る授業展開であったか、教師の支援はどうであったかご指導をいただいた。</p> <p>低学年部会(生活) 久保先生 中学年部会(理科) 岩崎先生 高学年部会(総合・情報) 佐和先生 どの学年も展開授業について詳しい先生にご指導いただけたので、今後の授業計画が立てやすくなった。また、他教科の学習指導でのコミュニケーション指導についてもお話をうかがえたことが大変参考になった。</p> <p>研修会の進め方については、佐和先生にご指導いただき、充実した研修になりました。</p>
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	<p>本校は、研究主題をコミュニケーション力を高め、学びを深め合うための学習指導のあり方として、21世紀型コミュニケーション力の定義をもとに研修を進めている。今回の研修では、21世紀型コミュニケーション力の教師の支援あり方をご指導いただくとともに、授業展開後の全体会での協議の持ち方についてもご指導いただいた。ブレインストーミングやKJ法などを取り入れ、多くの意見を出し合えるようになり、協議会がさらに充実するようになった。毎年11月にある公開授業研究会での授業についても教師の支援のあり方について確認することができた。</p>
研修の様子	

(13) 全日本教育工学研究協議会全国大会

開催日時	平成26年3月1日(土) 9時30分～11時30分		
開催場所	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟		
参加者人数	154名	内訳：指導主事 名 (社会教育主事含む)	
		小学校教員 名	特別支援学校教員 名
		中学校教員 名	研究教諭・研究員 名
		高等学校教員 名	他 名
研修の狙い	平成25年度「教育の情報化」推進フォーラムの分科会において、「コミュニケーション力の育成」研修を実施した。 現場の先生方に限られた時間ではあったが、コミュニケーションツールを実際にご体験いただき、授業への活用のヒントにしてほしい狙いであった。		
考察	メイン講師として山本先生、サブ講師として佐藤先生にご対応いただき、「思考表現ツール（ポスターセッション）を学ぶ ～教室のICT環境の有効活用をアピール！～」として、「ICT機器の活用ガイド（タブレット端末・電子黒板・デジタル教科書・実物投影機）」づくりをテーマに、ワークショップを実施した。 今回はICT機器企業の方が、グループ活動でのサポートとして入っていただいた。全国から参加されているので、初対面同志の先生方が多く、グループでの活動をメインとしているため、始める前に、「アイスブレイク」を行った。その後グループでの活動は、意見等もたくさん上がり、積極的に行っていた。		
研修の様子			

(14) 大崎市立鬼首小学校

開催日時	平成25年11月29日(金) 12時55分～17時00分
開催場所	大崎市立鬼首小学校
参加者人数	25名 内訳：指導主事 1名 (社会教育主事含む) 小学校教員 23名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 2名
研修の狙い	①ICT活用の事例(タブレットPC活用)を学ぶことで、各教科における効果的な指導方法を探るとともに、授業力を培う。 ②「21世紀型コミュニケーション力」について理解し、授業のあり方を探る。 ③地区内の教職員同士の交流を通して、授業や行事等の情報交換を行う。
考察	研修は、「大崎市小中学校授業力向上研修会」として、地域の教員の実状をふまえ、以下の3部構成で行った。 ・研修① 公開授業「5・6年算数」(複式学級) 5年 「四角形と三角形の面積」、6年 「資料の調べ方」 ・研修②「タブレットPCを活用した授業の実際と実技研修」 ・研修③「21世紀型コミュニケーション力育成ワークショップ」 21世紀型コミュニケーション力ワークショップでは、理論解説とともにモデル授業を視聴し、「21世紀型コミュニケーション力」の概要と、その授業の具体を学んだ。その後、バズセッション+ポスターセッションにより、「タブレットPCを活用した授業を考えよう」というテーマで、授業作りワークショップを行った。低・中・高・特別支援毎にグループを作り、それぞれのクラスの実態をもとに、2学期からすぐ始めることができるような手立てや、各教科の授業等、バラエティに富むものができあがった。また、作ったものをポスターセッションにより、他のグループに発表した。 今回の研修は、授業参観、実践研修、そして授業作りと、全てタブレットPCに特化して行った。タブレットPCを活用した授業のあり方についてイメージすることができたと考える。また、21世紀型コミュニケーション力についての理解を促し、児童のコミュニケーション力を少しでも向上させるための授業を考えることができたと考える。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	鬼首小学校では、「伝え合う力」の育成をテーマに校内研究を行っているが、21世紀型コミュニケーション力の内容を校内研究に取り入れることで、研究に厚みを加えることができた。また、この内容を意識して授業を行うことで、教師の授業力も、児童の力も少しずつ向上してきている。
研修の様子	

(15) 熊本県教育庁

開催日時	平成25年11月7日(木) 13時30分～16時30分
開催場所	熊本県立宇土高等学校
参加者人数	61名 内訳：指導主事 5名 (社会教育主事含む) 小学校教員 31名 特別支援学校教員 名 中学校教員 19名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他(市町村教委担当者) 6名
研修の狙い	熊本県「教育の情報化」に関する好事例ワークショップ【県央】 (熊本県教育庁) 21世紀型コミュニケーション力について理解し、ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解する。
考察	本研修では、以下の流れでワークショップを展開した。 1. 「21世紀型コミュニケーション力・能力表」について理解する。 2. モデル授業を視聴し、コミュニケーション力育成についてまとめる。 3. ワークショップのねらいを知る。 4. ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解する。 5. ブレインストーミング 6. 「KJ法」や「クロス法」の概要と進め方を理解する。 7. 出されたアイデアをもとに、グループごとに話し合う。 8. グループごとに発表する。 9. 研修のまとめをする 熊本県内の教育の情報化を推進するためのイベントの中で、ICT社会におけるコミュニケーション力育成のワークショップを取り入れて、ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解することができた。 今回は、ブレインストーミングを取り上げたことで、参加者全員で意見を出し合い、新たなアイデアを生み出すための手法を理解することができ、とても有意義なワークショップとなった。 ワークショップに詳しい外部講師を派遣してもらい、テキストやスライド等も事前に準備してあったので、開催者の負担が少なく、研修内容の充実につながった。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	本ワークショップを受講した各学校の代表者が、学校に戻ってから、校内での研修において講師となって、ワークショップの内容を伝えるようにしたので、今回のワークショップの内容が教師間でさらにひろがっていくことが期待できる。 また、各地域の教育事務所の指導主事も一緒に参加していたので、各地域の研修等でワークショップの内容を取り入れていくようにした。受講者の中から、ワークショップの内容を授業の中で活かすことができたとの声もいただいております、研修成果が確実に現れている。
研修の様子	 

(16) 熊本県教育庁

開催日時	平成25年11月8日(金) 13時30分～16時30分
開催場所	熊本県立菊池農業高等学校
参加者人数	77名 内訳：指導主事 4名（社会教育主事含む） 小学校教員 42名 特別支援学校教員 名 中学校教員 27名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他（市町村教委担当者） 4名
研修の狙い	熊本県「教育の情報化」に関する好事例ワークショップ【県北】（熊本県教育庁） 21世紀型コミュニケーション力」について理解し、ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解する。
考察	<p>本研修では、以下の流れでワークショップを展開した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「21世紀型コミュニケーション力・能力表」について理解する。 2. モデル授業を視聴し、コミュニケーション力育成についてまとめる。 3. ワークショップのねらいを知る。 4. ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解する。 5. ブレインストーミング 6. 「KJ法」や「クロス法」の概要と進め方を理解する。 7. 出されたアイデアをもとに、グループごとに話し合う。 8. グループごとに発表する。 9. 研修のまとめをする <p>熊本県内の教育の情報化を推進するためのイベントの中で、ICT社会におけるコミュニケーション力育成のワークショップを取り入れて、ブレインストーミングの基本ルールと進め方を理解することができた。 今回は、ブレインストーミングを取り上げたことで、参加者全員で意見を出し合い、新たなアイデアを生み出すための手法を理解することができ、とても有意義なワークショップとなった。 ワークショップに詳しい外部講師を派遣してもらい、テキストやスライド等も事前に準備してあったので、開催者の負担が少なく、研修内容の充実につながった。</p>
研修開催後についてのアクション（研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい）	<p>本ワークショップを受講した各学校の代表者が、学校に戻ってから、校内での研修において講師となって、ワークショップの内容を伝えるようにしたので、今回のワークショップの内容が教師間でさらにひろがっていくことが期待できる。</p> <p>また、各地域の教育事務所の指導主事も一緒に参加していたので、各地域の研修等でワークショップの内容を取り入れていくようにした。受講者の中から、ワークショップの内容を授業の中で活かすことができたとの声もいただいております、研修成果が確実に現れている。</p>
研修の様子	

(17) 和歌山市教育委員会

開催日時	平成 26 年 1 月 17 日(金) 13時30分～15時00分
開催場所	和歌山市教育文化センター (和歌山市西汀丁29番地)
参加者人数	42名 内訳：指導主事 1名 (社会教育主事含む) 小学校校長 42名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 研究所長 1名
研修の狙い	新学習指導要領の重点課題である「言語活動の充実」におけるコミュニケーション力育成をすすめるにあたり、具体的な指針を示すことで校内研修等を計画するきっかけを提供する。
考察	<p>和歌山市では、小中学校において言語能力の充実に向けた授業改善の取組を進めているところです。そのような状況において今回の研修は大変有意義なものでした。管理職を対象としたため、理論解説「概要解説」「能力表解説」という内容での実施をお願いしました。</p> <p>概要解説では「21世紀型コミュニケーション力」の概要と定義について映像を交えて分かり易く説明いただき、能力表解説では表の見方や各教科の指導案との関連付けについて概要を振り返りながら丁寧に説明いただきました。</p> <p>今回の研修でコミュニケーション力育成のための段階的な目標が具体的に示されたと考えています。まず管理職に理解いただくことで各学校においてコミュニケーション力育成に向けた取組をすすめるきっかけとなり、次に教員対象に課題改善・参加体験型の研修を実施できればと考えます。取組をすすめることで児童生徒間のコミュニケーションが円滑になり、いじめ、不登校についても好ましい影響が出ていることを聞くと、携帯電話・スマートフォンでの文字情報のコミュニケーションが普及した現在において、言語でコミュニケーションを取る重要性を改めて確認できた研修となりました。</p>
研修開催後についてのアクション (研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	各学校での取組となるため、記載は省略させていただきます。
授業の様子	 

(18) 佐賀市立赤松小学校

開催日時	平成25年11月21日(木) 15時10分～15時40分
開催場所	佐賀市立赤松小学校
参加者人数	30名 内訳：指導主事 名(社会教育主事含む) 小学校教員 30名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 本校の校内研究のテーマである「論理的な思考力・表現力」を育むために、21世紀型コミュニケーション力育成のための力をどのように育てていくかを全職員で学ぶ。 ポスターセッションの具体的な手法を知り、今後の授業に活かす。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ポスターセッションのねらいや具体的な方法、授業や研修会での実際について、写真などをもとに具体的に話をしていただいたので、授業でのイメージがつかみやすかった。 概要説明の後、授業づくりの計画をたてたため、今後の具体的なイメージをもち、実際の授業イメージをもち、学年で話し合いながら、取り組むことができた。今後の授業についての学年間でも共通理解もでき、よかった。 研修後のアンケート結果からも、取り組んでみたいという意欲が見られた回答も多かった。(担当学年や担当教科によっては教科の特性として取り組む予定なしのこともあった。) 昨年も研修を受けた教員は「21世紀型コミュニケーション力」についての考え方を少しは理解していたが、初めての教員にしっかり説明する時間がなく、もっと時間をとって理解を促す事ができればよかった。(研修計画をたてる際の私の反省です)
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 6年生国語「深めよう言葉の世界」で言葉について調べたことを資料を使いながらプレゼンテーションにまとめ、ポスターセッション形式で発表。各学年の授業の中で、ポスターセッションを取り入れようとしている。 4年生国語「報告します わたしたちの生活」で、身近なことについて調べ、資料などを使ってデジタルポスターセッション形式で1月に発表する予定。 1年生は幼稚園生を招待した学校紹介等で、ポスターセッション形式を取り入れる予定。
研修の様子	

(19) 佐賀市立若楠小学校

開催日時	平成26年1月24日(金) 13時20分～16時45分
開催場所	佐賀市立若楠小学校体育館
参加者人数	170名 内訳：指導主事 10名 (社会教育主事含む) 小学校教員 60名 特別支援学校教員 20名 中学校教員 5名 研究教諭・研究員 40名 高等学校教員 3名 他 42名
研修の狙い	○研究の成果を部会でポスターセッション形式で行うことで、教職員の協働意識や指導力を高めるため。 ○多くの参加者にセッションに参加してもらい、意見や感想をもらうことで、研究・実践してきたことに対する良かった点と課題を明らかにし、次年度の研究に生かすため。
考察	○教職員がチームとして役割分担してポスターを作成し発表することで、公開授業をしていない学級の職員も研究に積極的に参加し議論や実践を重ねるようになった。そのことで、協働で成果を出す意識が生まれ同僚性が高まった。 ○参加者にセッションに参加してもらい多くの意見や感想をもらうことで、自分たちの研究を振り返り、有用であった点と課題点が明らかにし、研究のまとめ作成や次年度の研究の方向性を考え計画する上で役立てることができていた。参加者にも、これまでの研究の積み上げについてよくわかった、自分の仕事に生かせる点を多く見つけられたとたいへん好評であった。 ○参観者にいかにより伝わりやすくなるか工夫したセッションを行ったことにより、児童に指導にも生かそうとする意識が生まれ、具体的な実践へもつながった。 ○ポスターの本数を増やし少人数で(例えば学年単位で)セッションを行えば、よりざっくばらんに意見を交わすことができ、議論が深まったのではないかと考える。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	○職員が、ポスターを作成し伝えたいことをコンパクトにまとめるスキルを獲得したので、普段の校内研修の実践発表会を同じ形式で行った。5学級の実践について職員同士が学び合い交流した。 ○ポスターセッションについて研修し学んだことを児童にも還元し指導に生かそうということで、第4学年の児童が全員、グループで協働して、総合的な学習で学んだことをポスターにし発表する実践を行った。
研修の様子	

(20) 大田原市教育委員会

開催日時	平成26年1月28日(火) 14時45分～16時45分
開催場所	大田原市湯津上庁舎会議室
参加者人数	30名 内訳：指導主事 名 (社会教育主事含む) 小学校教員 23名 特別支援学校教員 名 中学校教員 9名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	本市では、これまで全国学力・学習状況調査におけるB問題に課題が見られてきた。課題解決に向け、平成22年度より言語力育成プロジェクトを立ち上げ、これからの時代の子どもたちに必要な言語力の育成について研究しています。23年度からは、教職員を対象とした言語力育成研修を実施していますが、授業改善においては、以前教授型の授業からの脱却ができない状態が見られます。そこで、「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」研修会を実施し、市内教職員の授業改善の起爆剤としたいと考えています。
考察	A1 概要解説モジュールについて 「言語力の育成」、「言語活動の充実」が重視されていることは全ての教職員が共有していることです。しかし、活動が目的化したり、発達段階に合っていないかといった課題が見られます。講義の中で、コミュニケーション力について4つに分解し、指導の中の留意事項が確認されました。さらに学習指導要領との関連を確認して、発達段階に応じた能力の育成が説明されました。この部分を各学校で確認して取り組むことが必要であると思います。そして、説明された内容を具体的な授業映像で確認いただきました。実際の授業をもとに確認することで、小学校の教職員には理解が深まったと思います。ただこれまでに、こうした話を聞いたことがない教員にとっては45分は短かった気がします。わかったようでいて十分理解されていないことが考えられます。授業映像をもとに、説明内容について協議する場面があると理解が深まったような気がします。 C3 ブレーンストーミング+KJ法 学校現場や教員研修の場ではブレーストーミングらしい活動は行っています。ただ、今回のワークショップを通して、その目的、実施上のポイントを確認することができたと思います。まずはブレーストーミングにあった題材、実施上の4つの原則のおさえを知ることができたことが良かったと思います。ただ、実施の状況を見ると、柔軟な発想が出ているグループと意見が中々出ないグループが見られました。教職員自身が柔軟な発想を出すトレーニングが必要であると感じました。 KJ法についても学校現場で活用されていますが、小グループから大グループへという流れ、見出しは(〇〇が〇〇)といった形式については抑えていないことが多いと思います。こうした指導上のポイントが明確になりましたので、今後の指導では活動の目的が達成できるのではないのでしょうか。 非常に有意義な内容でしたが、それぞれもう少し時間があってもよい内容であった気がします。市内多くの教職員に参加してもらいたい内容でした。
研修開催後についてのアクション(研修開催後に、どのように研修内容を活かしたのかをお書き下さい)	「A1 概要解説モジュール」については、参加者の各学校で取り組むこととなりますので、市教委として把握することが難しいところがあります。市教育委員会としては、来年度が学校訪問の研究授業や指導案検討会、授業研究会で今回のポイントを広めていく予定です。 「C3 ブレーンストーミング+KJ法」も参加者の各学校で取り組むこととなりますが、市教育委員会では、若手教職員の研修会が2月に2回実施されましたので、その際活用することができました。ポイントをおさえて進めたので、様々なアイデアが出て、気づきの多い研修会となりました。
研修の様子	 

(21)「教育の情報化」推進フォーラム

開催日時	平成26年3月1日(土) 9時30分～11時30分
開催場所	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟
参加者人数	154名 内訳：指導主事 名 (社会教育主事含む) 小学校教員 名 特別支援学校教員 名 中学校教員 名 研究教諭・研究員 名 高等学校教員 名 他 名
研修の狙い	平成25年度「教育の情報化」推進フォーラムの分科会において、「コミュニケーション力の育成」研修を実施した。 現場の先生方に限られた時間ではあったが、コミュニケーションツールを実際にご体験いただき、授業への活用のヒントにしてほしい狙いであった。
考察	メイン講師として山本先生、サブ講師として佐藤先生にご対応いただき、「思考表現ツール(ポスターセッション)を学ぶ ～教室のICT環境の有効活用をアピール!～」として、「ICT機器の活用ガイド(タブレット端末・電子黒板・デジタル教科書・実物投影機)」づくりをテーマに、ワークショップを実施した。 今回はICT機器企業の方が、グループ活動でのサポートとして入っていただいた。 参加者は全国からいらしているので、初対面同志の先生方が多く、グループでの活動をメインとしているため、始める前に、「アイスブレイク」を行った。その後グループでの活動は、意見等もたくさん上がり、積極的に行っていただいた。
研修の様子	   

2. 5 アンケート結果より

今年度開催した研修を評価することと、研修受講後、研修内容を実際の授業や校内活動等で実践したかを受講者に対し、アンケートを実施した。

また、「コミュニケーション力の指導や言語活動の充実に関する研修」をこれまで受講したことがあるが、学校現場の研修状況も調べた。

以下にそのアンケート結果を記載する。

今年度は20会場で計20回のセミナーを開催し、受講者は973名、内アンケート回収は549名であった。

研修内容の評価や、研修を実施した後の授業への展開状況を把握するため、今回アンケートを研修実施前、研修実施後、研修実施一ヶ月後のタイミングで3種類実施した。

また、受講者のプロフィールとして、ICT活用状況やコミュニケーション力指導状況まで調査。

<受講前>

(1) 受講者のプロフィール

①勤務校

国立法人	公立	私立
0	658	23

②性別、年代

	10代	20代	30代	40代	50代	無回答	合計
男性	7	31	69	86	103	0	296
女性	18	52	34	52	63	0	219
無回答	0	0	0	0	0	1	1
	25	83	103	138	166	1	491

受講者の男女比率については、6：4。年代別では、50歳代が圧倒的に多く、年代が下がるにつれ、減少した。

③教員歴

	1～10年目	11～20年目	21～30年目	31年以上	学生／ 無回答	合計
男性	82	56	91	59	8	296
女性	81	35	39	39	25	219
無回答	0	0	0	0	0	0
合計	163	91	130	98	33	352

教員歴は、1～10年目及び21～30年が比率として高くなり、11～20年目及び31年以上が相対的にほぼ同じ比率となった。

④学習指導における ICT 活用年数

1～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	未回答	合計
187	105	98	44	30	85	549

⑤授業でのICT活用頻度

ほぼ毎日	週に一回程度	月に一回程度	使用しない	未回答	合計
203	132	87	43	84	549

⑥コミュニケーションツールについて

	パネルディスカッション	ディベート	バズセッション	イメージマップ	ブレインストーミング	KJ法	ポスターセッション
学んだ経験のあるコミュニケーションツール	310	300	83	205	248	279	243
児童生徒に対し指導経験のあるコミュニケーションツール	125	217	41	156	139	134	168

複数回答あり。

⑦CEC発行「コミュニケーション力の育成指導の手引き」認知度

知っている、読んだことがある	知っているが、読んだことはない	知らない	未回答	合計
46	103	359	41	549

⑧「コミュニケーション力指導や言語活動の充実」研修受講について

研修を受けたことがある。	266	国・文部科学省	19
		都道府県	142
		市町村	113
		その他	48
研修を受けたことがない。	234		

<受講直後>

(2) 研修内容について

①今回の研修を受講して、コミュニケーション力育成への興味・関心が高まったと思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
332	164	7	0	46	549

②今回の研修を受講して、今後のコミュニケーション力育成の指導に役立つと思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
300	187	7	0	55	549

③今回の研修を受講して、今後のコミュニケーション力育成や言語活動の充実での指導に自信をつけることができたと思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
52	389	59	0	49	549

④今回の研修内容は、あなたにとって満足することができたと思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
251	239	12	2	45	549

⑤今回の研修がきっかけとなって、今後の授業や指導が変わると思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
117	364	18	0	50	549

⑥今回の研修がきっかけとなって、子どもたちのコミュニケーション力が高まると思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
86	380	35	1	47	549

⑦今回の研修がきっかけとなって、コミュニケーション力育成や言語活動の充実に対する意識が変わったと思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
172	295	28	1	53	549

⑧今後の研修の中で、コミュニケーション力育成や言語活動の充実に関連する内容で特に取り上げたい内容や知りたい内容を選んで○をつけてください。 [複数回答可]

コミュニケーション 力育成の理論	能力表解説	授業研究・指導 案改善	パネルディスカ ッション	ディベート	バズセッション
194	101	239	87	97	83
イメージマッ プ	ブレインスト ーミング	KJ法	ポスターセ ッション	その他	合計
93	116	115	80	8	412

<研修後(1ヶ月)アンケート>

(3) 研修後の様子について

①前回の研修が終わってから、コミュニケーション力育成のワークショップ研修で受講した内容を授業や校務の中で実際に取り入れてみましたか。

実際に取り入れた。	今後取り入れる予定。	取り入れる予定はない。	未回答	合計
81	129	19	320	549

②前回研修した内容や方法は、コミュニケーション力育成や言語活動の充実における指導に役だったと思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
71	121	28	2	327	549

③前回の研修がきっかけとなって、今後の授業や指導が変わると思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
32	178	22	0	317	549

④前回の研修がきっかけとなって、児童生徒のコミュニケーション力が高まると思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
29	178	25	1	316	549

⑤前回の研修がきっかけとなって、コミュニケーション力育成や言語活動の充実に対する意識が変わったと思いますか。

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	まったく思わない	未回答	合計
41	170	22	0	316	549

(4) 自由コメント

「実際にコミュニケーションツールを授業で取り入れた方・今後取り入れる予定の方に対し、どんな場面（教科・単元、または校内研修の場面で）で活用したかなど、自由コメントで回答。

- ・ 現職教育において、職員に周知する。
- ・ 校内研修会をもち、コミュニケーション能力表を活用して、低・中・高学年のコミュニケーション力の目標について話し合う。また、授業の中でどう力をつけるかについて話し合う。
- ・ 社会科・総合的な学習・国語科など。
- ・ 校内研修・理科研究授業五の協議会で取り入れたいと考えています。
- ・ 研究(算数) の実践の場で、ろう学校との交流の場で。
- ・ 授業の中で・・・ペアやモデルを共有する等実践
校内研修で・・・ブレインストーミングを取り入れる予定
- ・ 来年度の学校課題の案として、表現力を取り入れる予定となっているので、それと関連させても、授業や日常活動の中に取り入れようと考えています。
- ・ 国語2年「話し合ってみよう」の単元で、プレゼントの内容を決めるのに、ブレインストーミングを活用した。
- ・ 5・6年の理科で、「地球の人口増加(40年後に100億人) と食糧問題の解決策について、自分が地球政府の大統領になったらどうするか考えよう」・・・ということで実施した。
- ・ 学活でブレインストーミングとKJ法を行った。内容(1学年：学校の中の2年生の役割について)

3. まとめ

3. 1 「コミュニケーション力の育成」研修の活動

(1) 「コミュニケーション力の育成」研修の開催

平成20年に公示された小・中学校の学習指導要領においては、「言語活動の充実」がキーワードとして示されている。

しかし、先行研究や実践事例等を調べると、情報教育を含んだ体系的なコミュニケーション力育成に焦点を当てたものがほとんど無いことがわかった。

また、コミュニケーション力育成に関する新たな指標作成や指導方法の開発の試みが進められる中、現在の学校現場でコミュニケーション力育成をどのようにと捉えているか、またどのような指導が行われているか把握する必要がある。

そこでCECでは、「教育におけるICT利用促進のための調査研究事業」の一つとして、2009年度から「21世紀型コミュニケーション力向上に関する調査委員会」を立ち上げ、コミュニケーション力育成に関する教員向け意識調査を実施し、学校現場での指導状況や促進要因を調査し、指導に必要な学習活動のための各学年／各教科等における21世紀型コミュニケーション能力表や、コミュニケーション力を育成するための学習活動案の開発をしてきた。

そして、2012年からそれらを広めるためのワークショップ形式の研修パッケージを開発、2013年から全国20カ所の教育委員会や学校において、研修を開催した。

コミュニケーションツールを活用した研修のカリキュラムやテキストを開発し、受講された先生方のスキルアップにつなげ、実際に現場で実践していただいた。

3. 2 次年度へ向けて 継続とさらなる定着

今年度実施した研修内容が学習活動に活かしていく、またはさらなる定着のために、その後の授業提案と検討会、授業の実践まで、サポートしていく内容を検討中である。

今年度の開催地の一つに、佐賀市立赤松小学校がある。ここでは、校内研修として「ポスターセッションモジュール」研修を実施。ポスターセッションの概要を中川先生が、その具体的な進め方を山本先生が説明された。次に、「子どもたちにポスターセッションを行う授業の具体的な内容」をテーマに、学年別のグループでディスカッション。1・3・6学年のグループの先生に、まとめたディスカッション結果を発表していただいた。

そして、研修の二ヶ月後である1月下旬に、子どもたちにポスター制作を実際に行う授業を行っていただいた。

この実施内容をモデルとして来年度展開案として検討し、新たな促進を図りたいと考えている。

<付録>アンケート質問票

アンケート イメージ

研修前	整理番号
<h3>児童生徒のコミュニケーション力に関する調査</h3>	
以下の項目について、数値を記入していただくか、どこかに○を付けてお答えください。	
回答期日：平成25年 月 日 ()	
I 回答者基本情報	
(1) 勤務校 () 国立法人 () 公立 () 私立 (2) 都道府県市町村 ()	
(3) 年齢 () 20代 () 30代 () 40代 () 50代以上	
(4) 教員歴 () 1～10年目 () 11～20年目 () 21～30年目 () 31年以上	
(5) 性別 () 男 () 女	
(6) 担当学年 () 小学校低学年 () 小学校中学年 () 小学校高学年 () 中学校	
(7) 学習指導で、コンピュータなどのICTを活用し始めて何年になりますか。 () 1～5年 () 6～10年 () 11～15年 () 16～20年 () 21年以上	
(8) 授業の中で、ICTをどの程度活用していますか。 () ほぼ毎日 () 週に1回程度 () 月に1回程度 () 使用しない	
(9) あなたが授業や研修の中で学んだことがある内容すべてに○をつけてください。 () パネルディスカッション () ディベート () バズセッション () イメージマップ () ブレーンストーミング () KJ法 () ポスターセッション	
(9) これまでに授業の中で児童生徒に対して指導したことがある内容すべてに○をつけてください。 () パネルディスカッション () ディベート () バズセッション () イメージマップ () ブレーンストーミング () KJ法 () ポスターセッション	
(10) 「コミュニケーション力指導の手引」初編、続編を知っていますか。 () 知っていて、読んだことがある () 知っているが、読んだことはない () 知らない	
	
コミュニケーション力指導の手引	
(11) コミュニケーション力指導や言語活動の充実に関する研修を、これまでに受けたことがありますか。 () 研修を受けたことがある [約 回] () 研修を受けたことがない ※受けたことがあると回答した方に 実施したのはどんな団体ですか。 () 国・文部科学省 () 都道府県 () 市町村 () その他 []	
裏面もごさいますのでお手数ですが、ご回答ください。	

ICT社会における安全・安心確保に関する補助事業 実施報告書

発行・著作 一般財団法人コンピュータ教育推進センター

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<http://www.cec.or.jp/CEC/>

禁無断転載



Center for Educational Computing